

39
政務司長
此
3
MT 14137 179

REEL No. 1-0370

0249

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns from right to left. The text is highly stylized and difficult to decipher precisely, but appears to be a formal address or a short letter.

MT 14137

180

REEL No. 1-0370

0250

秘

ちんま

樺太島境界劃定ニ関スル意見上申

日露講和條約追加約款第二ニ従ハ、樺太島境界劃定委員、

第一國境トナルヘキ全境界線ヲ實測シ

第二全國境ヲ示ス地圖ヲ調製シ

第三樺太島北緯五十度以南ノ沿岸ニ於ケル島嶼ヲ捜査シ其表及明細書ヲ作

シ要シ候然レニ昨年我陸地測量員ノ實視候處ニ依リ北緯五十度附近ニ於ケル

境界線約三十邦里中其三分二ハ太古ノ密林ニシテ樹木伐截ノ後ニ非サレハ實測行

ハ難ク往々進入モセテ敷又ホロナイ河谷ト雖モ展望交通ノ爲メ人工ヲ要スルコト不

可ニ全線ニ實測シ四五年ノ星霜ヲ費サル可ラレ儀ト思考致候固ヨリ實地踏査ノ上

ナラテハ精確ナル豫測ハ出未難キモ今年内ニ終了難致ハ確カニ逆睹シ得キ情况ニ御

座候兩國隣接ノ地全部精確ノ境界ヲ劃定シ他日ノ煩累ヲ避クルハ須要ノ儀

ニ有之候得共数年ノ星霜ト巨万ノ經費ヲ要シ而モ差當リ必要少ナキ部分多キ

ニ居リ候ニ付同島ニ於ケル境界ハ別紙甲号綱領ノ主旨ニ由リ北緯五十度ノ一直線

ヲ以テ劃定致候モノトシ兩國委員ハ其必要ナル部分ニ實測候標致度又島嶼ノ如

キモ追加約款規定ノ精神ハ北緯五十度以南沿岸全体ニ就キ之ヲ調査ヲ為サル可

ラサル撮相見候得共是亦僅少ノ時日内ニ精測無覺束候ニ付大約四十九度ヨリ五

十二度ノ間ニシテ海岸ヲ距ル凡ソ二十哩ノ海面ニ限リ探査スル事ニ致度意見ニ御座候

境界劃定作業ハ別冊提議按緯度測量及地形測圖方按ニ準シ露國委員ト交

涉致且ツ前項意見御採用相成候ハ提議案第六ハ朱書ノ通り修正致スヘキ意見

ニ御座候

40

秘

MT

14137

181

MT

14137

182

右意見ニ對シ何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

明治三十九年五月二十三日

樺太境界劃定委員長大島健一

陸軍大臣寺内正毅殿

MT

14137

183

REEL No. 1-0370

0252

甲

日露境界劃定綱領

明治三十九年五月廿三日印刷

樺太島ニ於ケル日露兩國ノ境界ハ全部北緯五十度ノ直線ヲ以テ劃定スルモノトシ偏倚均衡曲線ニ據ルノ法ヲ避ケ其實測ハ所要ノ一部ニ止ム

理由

第一將來日露開釁ノ事アリトスルモ樺太島ハ首作戦ヲ行フノ地ニ非ス又北緯五十度附近ノ地形現在ノ地國ハ完全ナキヲ相ルニ僅少地區ノ偏倚ハ作戦上至大ノ利害ナキモノノ如シ況ヤ本島ノ主タルヲ得ルハ境界附近ノ得喪作戦部隊ノ強弱ニ非スシテ制海權ノ領有ニ在リ故ニ平時防禦設備ヲ許サル地方ニ於ケル一二吉米ノ出入ハ用兵上大ナル影響ヲ生セザルヘシ

第二北緯五十度附近ハ開拓未タ到ラス人煙極メテ稀少ニシテ行政上目下特ニ

境界ノ偏倚曲折ヲ望ムノ必要ナシ而シテ殖産ノ狀況ニ由リ多少ノ顧慮ヲ要スヘキモ實査報告ナキ今日之ヲ判定スルコト能ハス只ホロナイ河ハ鮭鱒等魚屬孵化ノ要水ニシテテル。ニヤ灣漢業ノ一大資源ナリト云フ果シテ然ラハ之カ繁殖保護ノ為ニ露領上流ニ於ケル山林濫伐、源鑛流毒ヲ防キ漢獲ノ制限等ヲ圖ルハ別個談判屬ス寸尺ノ長サモ之ヲ我領土内ニ收ムルヲ要ス又ホロナイ河ニシテ遠ク上流露領ニ至ルモテ舟楫ノ便アリトスレハ同河ハ恰モ末因、多腦ノ如ク國際河川ト為リ其通航權ハ独リ我國ノ占有ニ屬セサルニ至ラン此点ニ於テモ成ルヘリ上流ニ境界ヲ偏倚セシムルノ必要アリ然レトモ公然タル偏倚ノ目的ハ容易ニ境界ヲ識別シ得ルニ在リテ無限ニ之ヲ擴張シ難キノミナラス之カ填補トシテ割クキ山地ノ富源亦ト知シ難ク独リ殖産ノミナラス時ニ有望ナル鑛區ナシトセザラシテ實地踏査ノ後ニ非サレハ偏倚ニ依テ生ズ利

41

MT

14137

185

MT

14137

184

害ヲ判定スルコト能ハサルヘシ

第三偏倚屈曲ニ地理ニ依テ境界ヲ劃定セント欲セハ國境全線ニ通シテ踏査實測セサルヘカラス是短日月ノ作業ヲ以テ能クスヘキ事ニ非サルニナラヌ北緯五十度附近ノ地ハ太古ノ密林ヲ以テ覆ヘルチアラエスツル西山脈連亘シ全線三十餘邦里稍ヤ敞開セル部分ハ其三分一ニ過キス而シテ二十邦里間ノ大部ニ於テ樹木ヲ伐截シ道路ヲ開設スルノミテモ尚左表ノ時日ト經費ヲ要ス

北緯五十度 境界測圖 立木伐採見積表

年数	日数	人夫	立木伐採 三〇里	面積 一、九四〇、〇〇〇坪	積算 積算代價 七九、三〇〇圓	摘 要
六四八日	六八日	三、八八〇人	三、八八〇坪	六八、〇〇〇坪	八、五〇〇圓	平均三坪ニ一本立木伐採積算残物取除ニ式 二日平均坪立木伐採積算積算物指定ノ場所ニ運搬ニ式 毎日十令使役一年間(休業日数除キ)三百日間就業ノ見込 四季共ニ就業ニ得ルモト假定シ

MT 14137

此計算ハ明治三十八年我測量班長タル陸軍技師中柴録三郎ノ實地視察ノ後作リタルモノニシテ立木ハ全線山野ヲ通シテ平均シタル算ナリ目下島地拓殖ノ現況ニ於テハ縦令巨万ノ經費ヲ擲チ数年ノ作業ヲ行ヒ僅ニ一條ノ境界線ヲ作ルモ深山幽谷無人ノ境数年ヲ要シテ再ヒ現時ノ状態ニ復シントス

結論

以上理由ニ依リ彼我ノ境界ハ捜査延長ニ便ナル一直線トシ今回ハ本年間ニ終了シ得ヘキ作業ヲ界限トシ東西兩海岸ニ各一ヶ所ホロナイ河谷ニ於テ約二ヶ所ノ實測ヲ行ヒ以テ一部ノ緯度ヲ定メ之ニ應ズル地形測量ヲ行ヒ成ルヘク廣地ノ地形實測ノ所要ノ標定ヲ設ケ將來拓殖ノ進歩ト共ニ既測ノ境界線ヲ延長シ要スルハ實測修正ニ
コトヲ盟約スルヲ可トセン

MT 14137

乙 我國境界劃定委員ハアレキサンドロフニ於テ露國委員ト會シ劃定作業着手ノ爲
ノ左ノ諸件ヲ確定ス

境界確定作業實行ニ関スル提議案

日本委員ハ境界確定作業着手前其實行ノ順序方法ヲ協定スルノ必要
ヲ認メ左ノ諸件ヲ提議ス

一 會議ハ各其本國語ヲ用キ議定書ハ日露兩國語ヲ以テ各二通ヲ作り日露兩國
委員ハ兩國語ノ各一通ヲ領有スルモノトス

二 日露兩國委員ヨリ各々委員一譯官一ヲ指名シ議事録調製委員ヲ組織ス
此委員ハ兩國委員協商ノ顛末ヲ筆記シ互ニ比較檢校シテ委員長ニ呈ス兩
國委員長適宜ノ機會ニ於テ署名交換シ他日議定書作製ノ資料ニ供フ

MT 14137

三 實測作業ハ先ツ兩國人民ノ往來シ得ル地境共ニ近キ將來ニ於テ拓殖ノ行
ルニキ比較的測量天測及測圖ノ容易ナル部分ヨリ始ムルコトニ本年ハ東西兩海岸

ニ於テ各一ヶ所ナイオロヨリオノールヲ徑テルイゴフニ通スル道路附近ニ一ヶ所其
東方若干里ヲ隔テ適當ノ地点ニ一ヶ所ヲ撰シ北緯五十度ノ地点ヲ測定シ
ホロナイ河谷ニ於テハ成ルヘク之ヲ連接標示スルモノトシ其實測ノ順序ヲ協定
センコトヲ望ム

緯度ノ測量ハ天候ト土地開闢ノ程度ニ由ルヘキモ一点平均凡ソ一ヶ月ヲ要ス
ヘク隨テ降雪前途ニ吾人ノ測定シ得ヘキ地点ハ約四点ニ過キサレシ

四 彼我ノ交渉ニ便シ事業ノ進歩ヲ速ナラシム爲メ双方畧キ同一ノ方法ヲ以テ同
時同一地点ノ緯度ヲ測定センコトヲ望ム

MT 14137

五、緯度ノ実測法及測定結果ノ平均法ハ凡ソ別冊緯度測量方按ニ準シ実施シタキ
意見ナリ露國委員ノ協賛ヲ得テ作業ノ実行法ヲ定メシコトヲ望ム

六、チアラ、エスソル山地ニ於ケル境界ハ樹木ヲ伐截シ通路ヲ開設シタル後ニ非サレハ劃
定作業ニ従事スルコト能ハサルヘシト信ス而シテ本年ハ此山地ノ測量ヲ行フノ猶
豫ナカルヘキモ將來ノ実測ヲ速ニスル為メ今日ヨリ伐木并ニ通路開設ノ作業ニ着
手スルヲ可トセン露國委員ニ於テモ同意ナレハ其實行方法ヲ協商シタシ

六、樺太島中北緯五十五度附近ハ古來人跡列ラサルチアラ、エスソル兩山脈連亘シ全線
ノ約三分ニハ山林伐截ノ後ニ非サレハ実測ヲ行ヒ難キノミナラス、河口ト雖
モ交通路ノ開設樹木ノ伐截ヲ要スル地点少ナカラス全國境ヲ通シテ実測ヲ行ヒ一連ハ
境界ヲ標定シ地圖ヲ調製セン。四年有餘ノ星霜ヲ要スルルヘシ然ルニ海峽、山谷

今後容易ニ開拓セラレサル地ニ於テハ刻苦經營セル境界モ遠カラスレテ荒敷耕
スヘカラサルニ至ルニ固リ難シ故ニ吾人ノ事業ハ前章三項ノ程度ヲ限リテ將來拓
殖ノ進歩ト共ニ吾人ノ實測設定セル緯度ヲ延長シ所要ノ境界標ヲ増設
スルコトニモハ大ニ境界劃定ノ決定ヲ速ナラシメ九月十月ノ交迄ニハ概テ成功スルヲ得ン
而シテ將來ノ延長ヲ容易ナラシムル為メニ境界ハ一直線ナルヲ可トス
此意見ハ直ニ可否ヲ決スヘキ性質ニ非サルモ露國委員ニ於テ同意ナレハ測量ノ
傍調査シ此意見ノ適當ナルヲ認シ各本國政府ノ指揮ヲ請ヒ之ニ關シ規約
ヲ締結シ度

規約 (是ハ他日規約締結ノ會議ニ出スヘキ提案)
甲、樺太島ニ於ケル日露兩國ノ領土ハ北緯五十五度ノ一直線ヲ以テ境界トス而シテ

MT

14137

191

MT

14137

190

此境界線ハ本年兩國委員ノ實測セル部分ヲ基準トス

乙 將來日露兩國ノ一カ未タ實測ヲ經サル地方ニ於テ開拓ニ着手セントスルトキハ
正確ニ既測五十度ノ北緯ヲ延長シ直ニ之ヲ對手國ニ通知シ期限ヲ定メテ
其承認ヲ求ムルモノトス

丙 此通知ヲ受ケタル一國ハ此延長セル緯度ヲ点檢シ其正確トラサルヲ認めル
トキハ其開拓着手ヲ拒絶シ彼我臨檢實測シテ之ヲ修正セルノ權利ヲ保留
ス

丁 前項ノ点檢若ハ修正ヤリタル後日露兩國共同ニ其點ノ標ヲ設置ス

七 地形測量ハ地區地物ノ關係位置ヲ以テ緯度ノ通ル地点ヲ精確ニ表示ス
ルヲ目的トシ彼我各別ニ行ヒ其廣表ハ成ルヘク長ク幅ハ緯度ノ南北凡ソ四吉米

ニ及ラモノトス而シテ我測圖班ハ別冊地形測圖方按ニ準據シテ實測スル意
見ナリ

八 我國委員ノ緯度測站ニハ附圖第一ノ標石ヲ埋設ス而シテ日露ノ境界
ニ埋設スヘキ標石モ試ニ附圖第二ノ如キモノヲ立按セリ露國委員ノ按件
ト合シ協議修正ノ上製作ヲ命スルコトニシ度

九 北緯五十度以南ニシテ樺太島附近ニ於ケル島嶼ハ總テ露國ヨリ日本ニ讓與
セラレタルモノナリ依テ委員ハ今後其所屬ノ明瞭ヲ欠クノ虞ナカラシムルヲ目的トシ
大約北緯四十九度ヨリ五十一度ノ間ニシテ海岸ヲ距ル約二十哩ノ海面ニアル島
嶼ヲ調査シ其表及明細書ヲ作ルニ止ンコトヲ企望ス

十 島嶼ノ調査ハ區域ノ如何ニ関セス兩國委員各別ニ實測スルモノトス

MT

14137

193

MT

14137

192

豫告

一、我國委員ノ宿舍、器具材料ノ運搬等ハ多ク露領内ニ於テセサル可ラサルヲ以テ要スレハ人夫車馬ノ備役物資家屋ノ買借等相當ノ補助ヲ露國委員ニ依頼スルコトアルヘシ

二、我國ノ委員及之ニ屬スル人員ハ別表ノ如シ

三、四平街協約^ハリ子ウキツチ將軍ヨリ我政府ニ傳言セラレタル所ニ依レハ貴國境界劃定委員ニ護衛トシテ兵百名ヲ附セラルヘキ趣ナリホーツマス條約ノ精神ニ依レハ我モ亦同數ノ護衛兵ヲ有スヘキ筈ナルモ本員ハ專ラ貴國領土ノ内ニ行動スルコト多キヲ思ヒ貴國ノ治權ヲ尊重シ且ツ貴國ノ政廳ニ信賴シ右護衛兵ハ引率シ来ラズ只我軍ノ法規ニ従ヒ金櫃護衛トシテ銃器ヲ有スル士卒

十名ヲ率ヒ又野獸ニ對スル自衛ノ爲ノ古式銃三十拳銃五十挺ヲ携行セリ尤モ形勢之ヲ不必要トスレハ古式銃共ニ拳銃ハ當地ニ殘シ置ク考ナリ

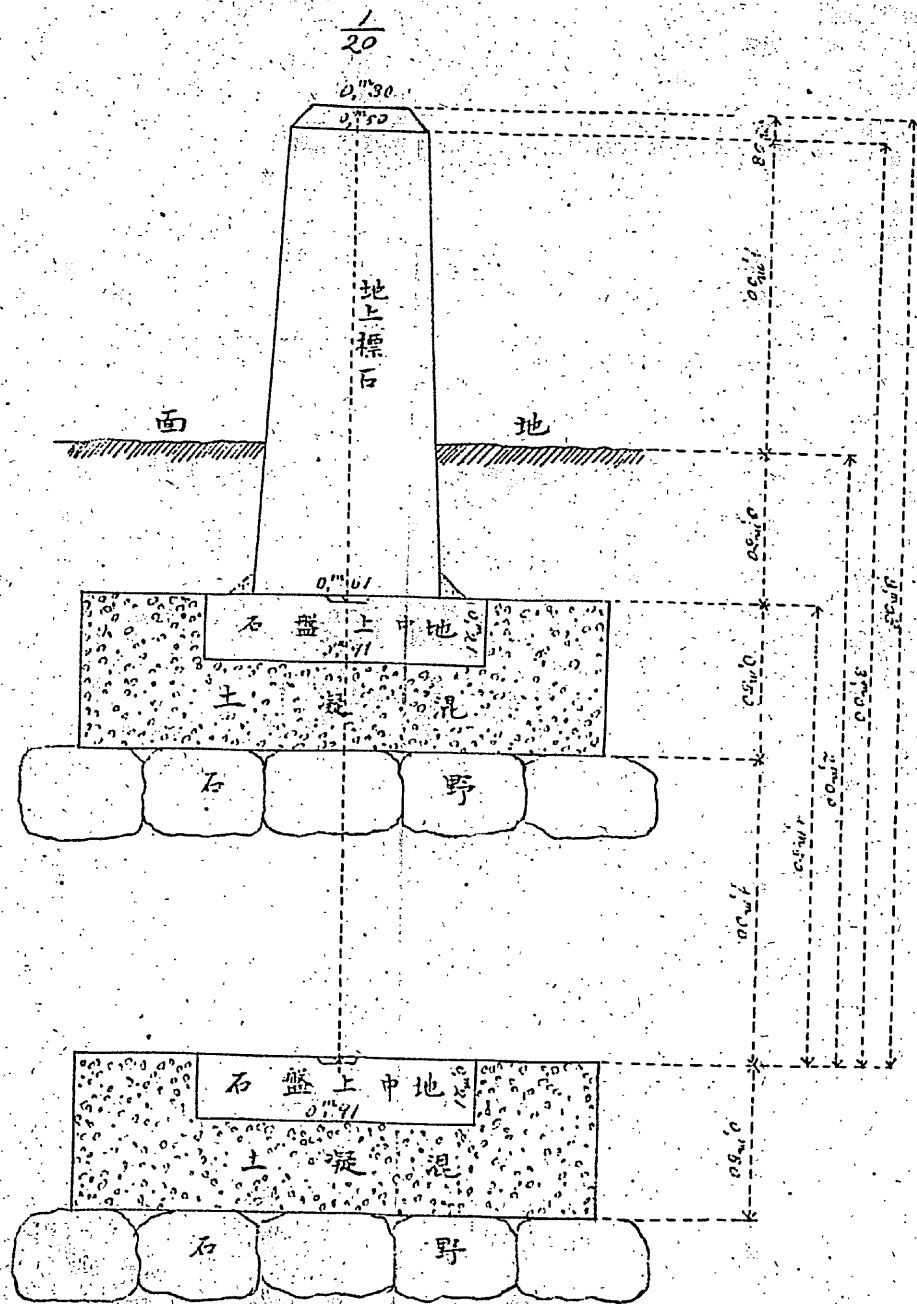
MT 14137

195

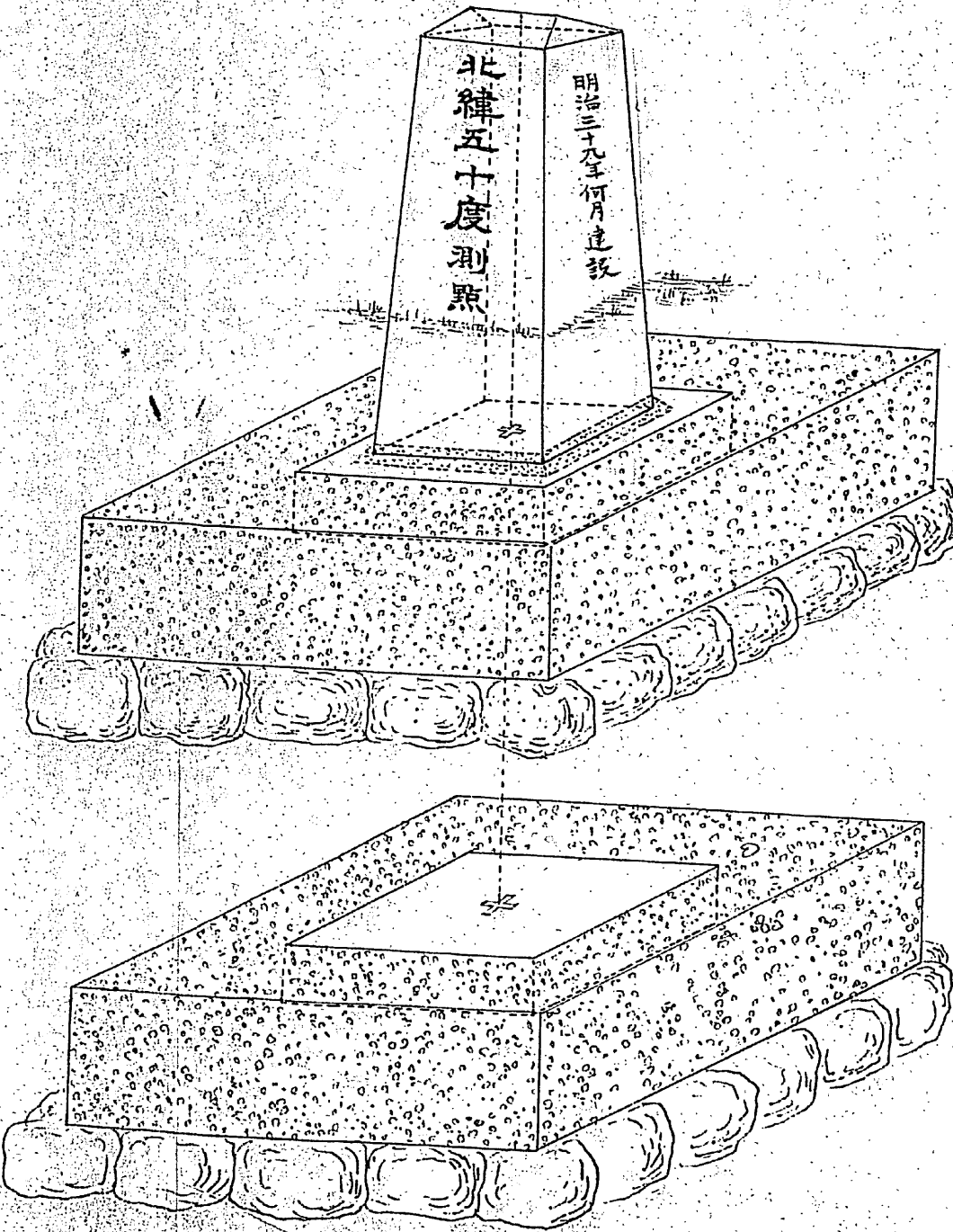
MT 14137

194

緯度測量點石標定新圖



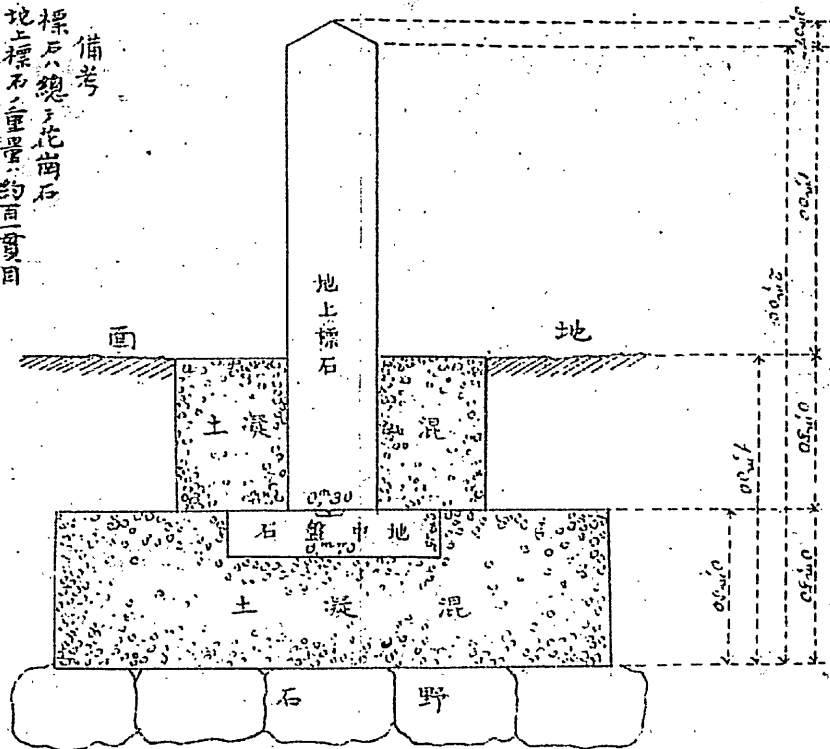
緯度測量點及中地石標視圖



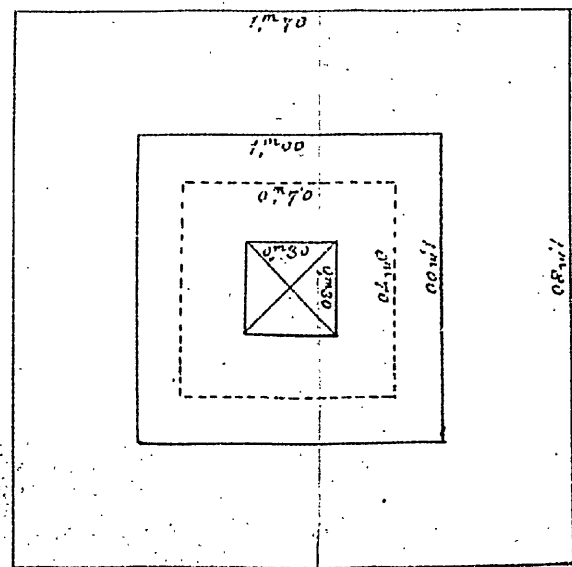
附圖第一

日露國界標石
断面圖

備考
標石總長比崗石
地上標石重量約百貫目
地下標石重量約五十三貫目

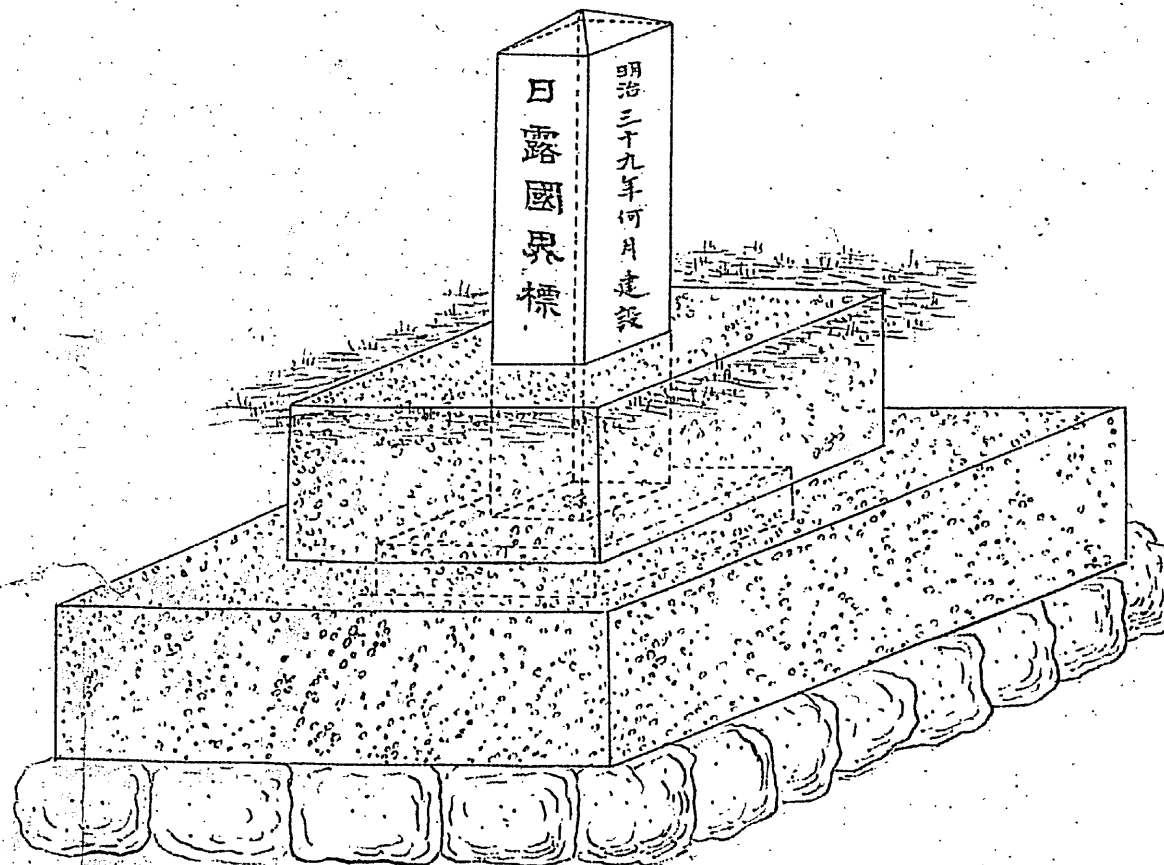


同上平面圖



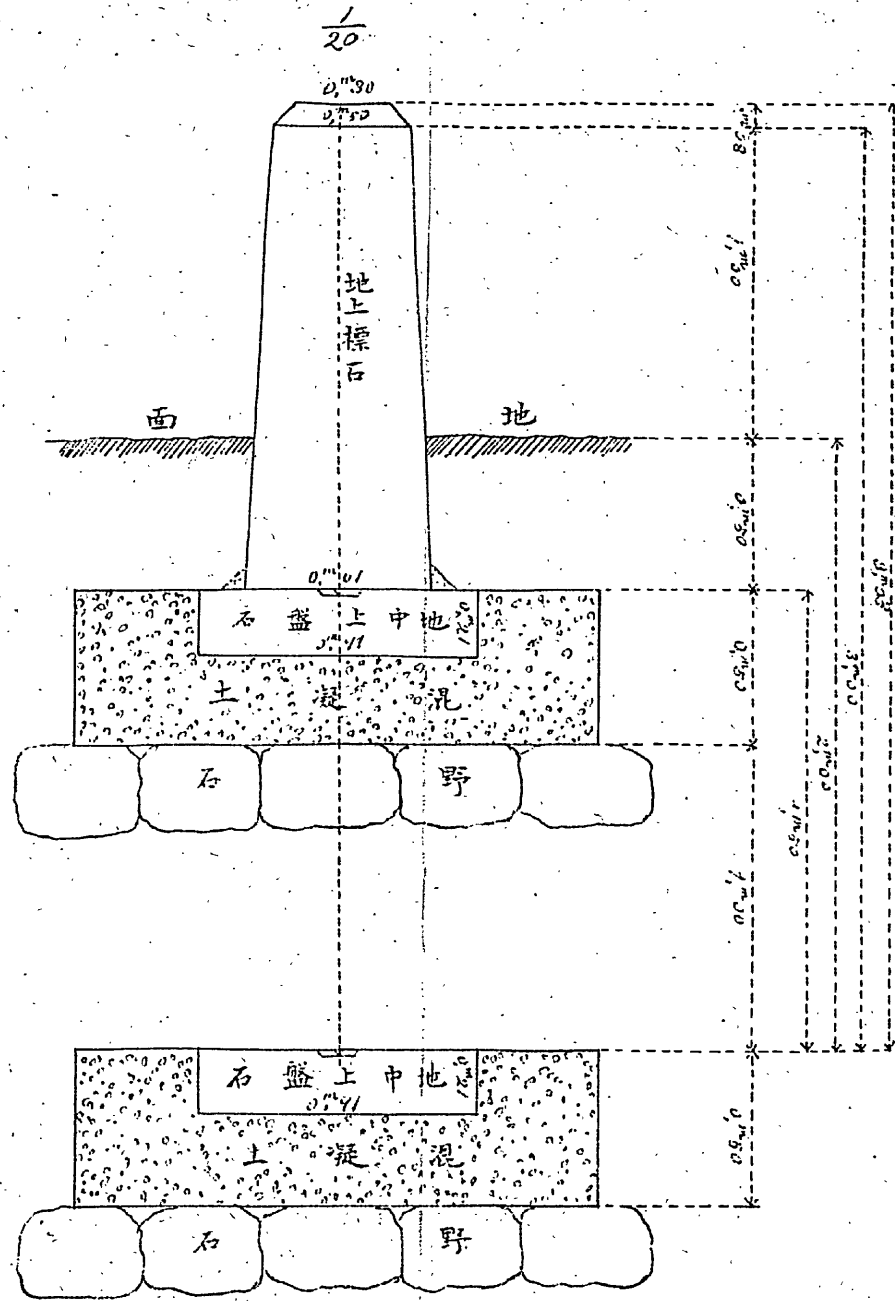
日露國界標石
埋定視圖

1/20

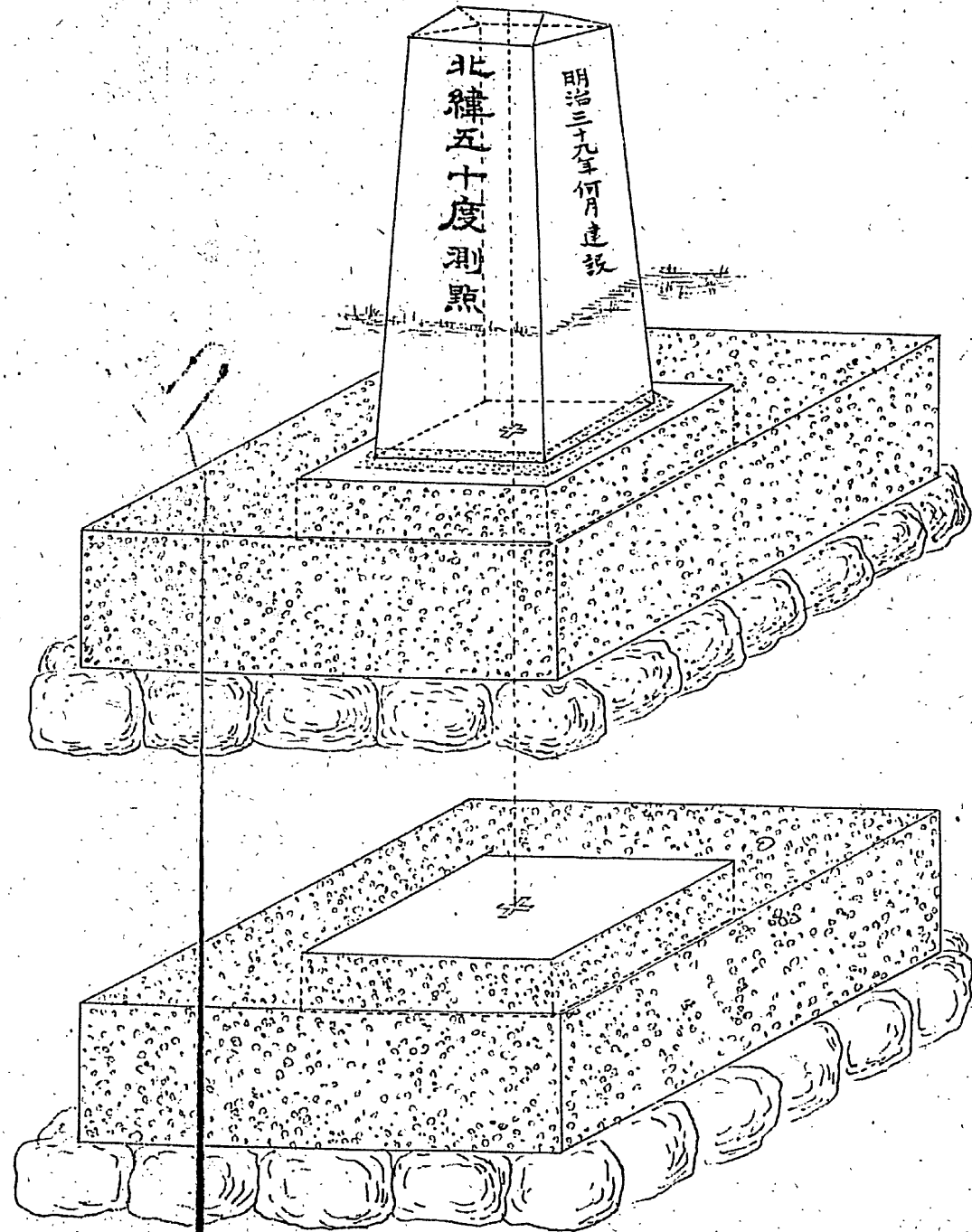


附圖

緯度測點標石定漸面圖



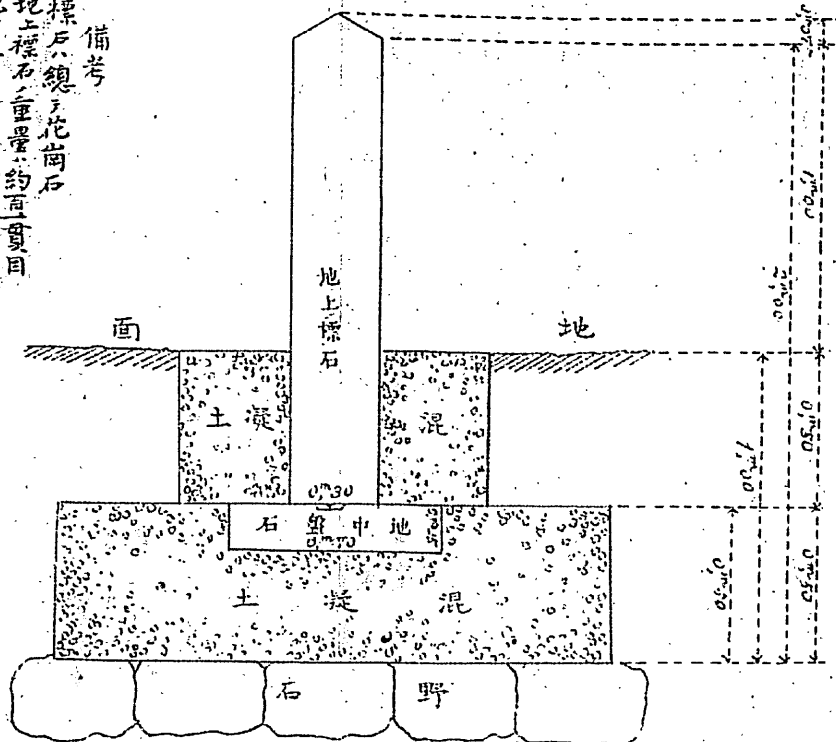
緯度測點上地及中標石視圖



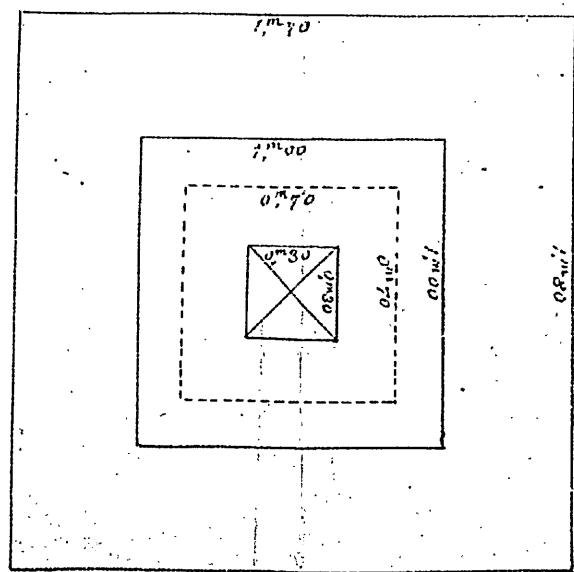
後附
附高第一

日露國界標石
斷面圖

備考
標石總高1.10米
地上標石之重量約百斤
地下標石之重量約五十斤

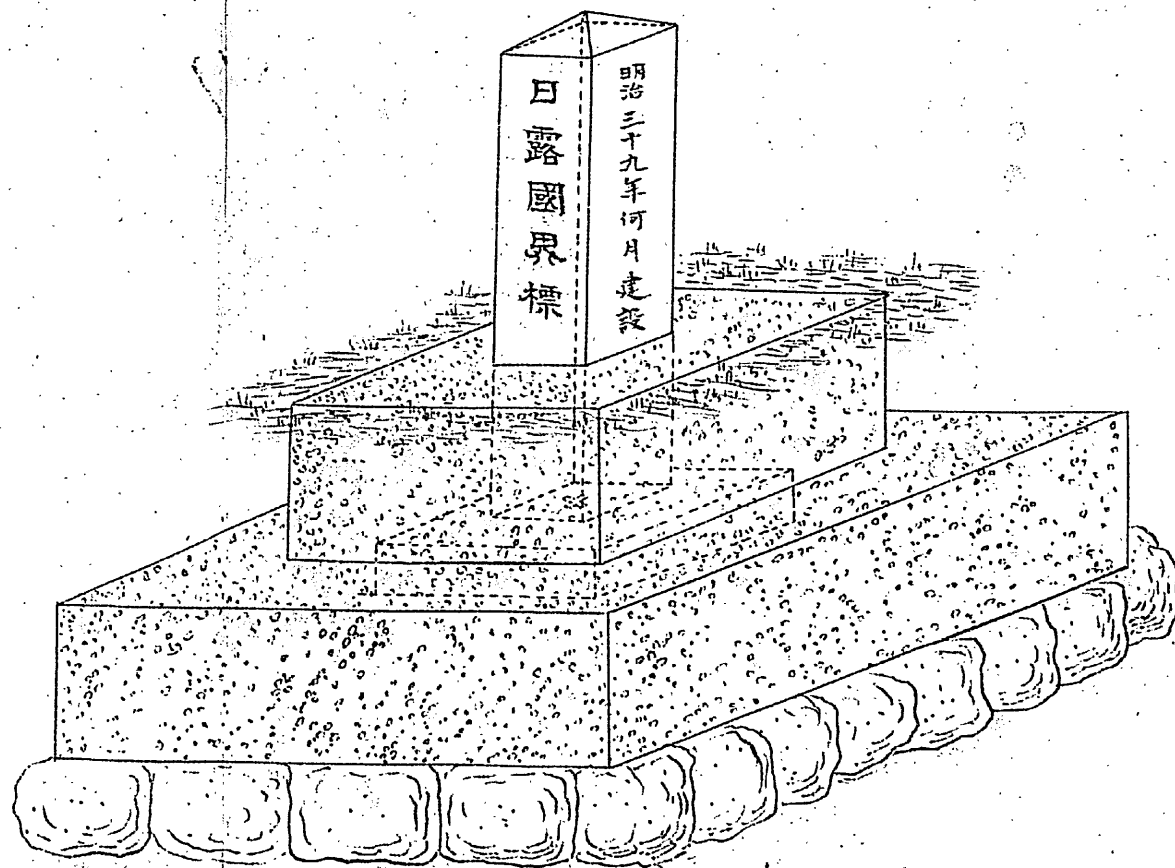


同上平面圖



日露國界標石
埋定視圖

1/20



秘

海防局長

Handwritten signature

Handwritten signature

軍機秘傳

樺太島境界劃定ニ関スル意見上申

日露講和條約追加約款第二ニ従ハ、樺太島境界劃定委員ハ

第一國境トナルヘキ全境界線ヲ實測シ

第二全國境ヲ示ス地圖ヲ調製シ

第三樺太島北緯五十度以南ノ沿岸ニ於ケル島嶼ヲ搜查シ其表及明細書ヲ作シ

ヲ要シ候然レニ昨年我陸地測量員ノ實視候處ニ依リ北緯五十度附近ニ於ケル

境界線約三十邦里中其三分ニハ太古ノ密林ニシテ樹木伐截ノ後ニ非サレハ實測行

ハ難ク往々進入モ六ノ敷又ハボナイ河谷ト雖モ展望交通ノ為ノ人工ヲ要スルコト不鮮

趣ニテ全線ノ實測ニハ四五年ノ星霜ヲ費サル可ラサル儀ト思考致候固ヨリ實地踏査ノ上

ナラテハ精確ナル豫測ハ出未難キモ今年内ニ終了難致ハ確カニ逆睹シ得ヘキ情況ニ御

坐候兩國隣接ノ地全部精確ノ境界ヲ劃定シ他日ノ煩累ヲ避クルハ須要ノ儀

ニ有之候得共数年ノ星霜ト巨万ノ經費ヲ要シ而モ差當リ必要少ナキ部分多キ

ニ居リ候ニ付同島ニ於ケル境界ハ別紙甲号綱領ノ主旨ニ由リ北緯五十度ノ一直線

ヲ以テ劃定致候モノトシ兩國委員ハ其必要ナル部分ニ實測候採致度又島嶼ノ如

キモ追加約款規定ノ精神ハ北緯五十度以南沿岸全体ニ就キ之ヲ調査ヲ為サル可

ラサル採相見ハ候得共是亦僅少ノ時日内ニ精測無覺東候ニ付大約四十九度ヨリ五

十一度ノ間ニシテ海岸ヲ距ル凡ソ二十哩ノ海面ニ限リ採査スル事ニ致度意見ニ御坐候

境界劃定作業ハ別冊提議按緯度測量及地形測圖方按ニ準シ露國委員ト交

涉致且ツ前項意見御採用相成候ハ提議案第六ハ朱書ノ通り修正致スヘキ意見

ニ御坐候

MT

14137

197

MT

14137

196

右意見ニ對シ何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

明治三十九年五月二十三日

樺太境界劃定委員長大島健一

陸軍大臣寺内三毅殿

MT

14137

198

REEL No. 1-0370

0264

甲

日露境界劃定綱領

明治三十九年五月廿三日印刷

樺太島ニ於ケル日露兩國ノ境界ハ全部北緯五十度ノ直線ヲ以テ劃定スルモノトシ偏倚均衡曲線ニ據ルノ法ヲ避ケ其實測ハ所要ノ一部ニ止ム

理由

第一將來日露開釁ノ事アリトスルモ樺太島ハ首作戰ヲ行フノ地ニ非ス又北緯五十度附近ノ地形現在地圖ハ完全ナラズヲ相ルニ僅少地區ノ偏倚ハ作戰上至大ノ利害ナキモノ如シ況ヤ本島ノ主タルヲ得ルハ境界附近ノ得喪作戰部隊ノ強弱ニ非スシテ制海權ノ領有ニ在リ故ニ平時防禦設備ヲ許サル地方ニ於ケル一二吉米ノ出入ハ用兵上大ナル影響ヲ生セザルヘシ

第二北緯五十度附近ハ開拓未タ到ラス人煙極メテ稀少ニシテ行政上目下特ニ

境界ノ偏倚曲折ヲ望ムノ必要ナシ而シテ殖産ノ狀況ニ由リ多クノ顧慮ヲ要スヘキモ實查報告ナキ今日之ヲ判定スルコト能ハス只ポロナイ河ハ鮭鱒等魚屬孵化ノ要水ニシテテロニマ灣漁業ノ一大資源ナリト云フ果シテ然ラハ之カ繁殖保護ノ為ニ露領上流ニ於ケル山林濫伐、源鏡流毒ヲ防キ漢獲ノ制限等ヲ圖ルハ別個談判屬ス寸尺ノ長サモ之ヲ我領土内ニ収ムルヲ要ス又ポロナイ河ニシテ遠ク上流露領ニ至ルモテ舟楫ノ便アリトスレハ同河ハ恰モ未因多腦ノ如ク國際河川ト為リ其通航權ハ独リ我國ノ占有ニ屬セサルニ至ラン此点ニ於テモ成ルヘク上流ニ境界ヲ偏倚セシムルノ必要アリ然レモ公然タル偏倚ノ目的ハ容易ニ境界ヲ識別シ得ルニ在リテ無限ニ之ヲ擴張シ難キノミナラス之カ填補トシテ割クキ山地ノ富源亦ト知シ難ク独リ殖産ノミナラス時ニ有望ナル鑛區ナシトセザラシテ實地踏查ノ後ニ非サレハ偏倚ニ依テ生ズ利

MT

14137

200

MT

14137

199

乙 我國境界劃定委員ハアレキサンドロフニ於テ露國委員ト會シ劃定作業着手ノ爲
ノ左ノ諸件ヲ確定ス

境界確定作業實行ニ関スル提議按

日本委員ハ境界確定作業着手前先ツ其實行ノ順序方法ヲ協定スルノ必要
ヲ認メ左ノ諸件ヲ提議ス

一 會議ハ各其本國語ヲ用キ議定書ハ日露兩國語ヲ以テ各二通ヲ作り日露兩國
委員ハ兩國語ノ各一通ヲ領有スルモノトス

二 日露兩國委員ヨリ各委員一譯官一ヲ指名シ議事録調製委員ヲ組織ス
此委員ハ兩國委員協商ノ顛末ヲ筆記シ互ニ比較檢校シテ委員長ニ呈ス兩
國委員長ハ適宜ノ機會ニ於テ署名交換シ他日議定書作製ノ資料ニ供フ

MT 14137 203

三 實測作業ハ先ツ兩國人民ノ往來シ得ル地境并ニ近キ將來ニ於テ拓殖ノ行
ルニキ比較的測量天測及測圖ノ容易ナル部分ヨリ始ムルコトニシ本年ハ東西兩海岸
ニ於テ各一ヶ所ナイオロヨリオノールヲ徑テルイユフニ通スル道路附近ニ一ヶ所其
東方若干里ヲ隔テ適當ノ地点ニ一ヶ所ヲ撰ミ北緯五十度ノ地点ヲ測定シ
ホロナイ河谷ニ於テハ成ルヘク之ヲ連接標示スルモノトシ其實測ノ順序ヲ協定
センコトヲ望ム

204

緯度ノ測量ハ天候ト土地開闢ノ程度ニ由ルニキモ一点平均凡ソ一ヶ月ヲ要ス
ヘク隨テ降雪前途ニ吾人ノ測定シ得ヘキ地点ハ約四点ニ過キサレシ
四 彼我ノ交渉ニ便シ事業ノ進歩ヲ速ナラシムル爲メ双方畧キ同一ノ方法ヲ以テ同
時同一地点ノ緯度ヲ測定センコトヲ望ム

MT 14137

五、緯度ノ実測法及測定結果ノ平均法ハ凡ソ別冊緯度測量方按ニ準シ実施シタキ
意見ナリ露國委員ノ協賛ヲ得テ作業ノ実行法ヲ定メノコトヲ望ム

六、チアラエツル山地ニ於ケル境界ハ樹木ヲ伐截シ通路ヲ開設シタル後ニ非サレハ劃
定作業ニ従事スルコト能ハサルヘシト信ス而シテ本年ハ此山地ノ測量ヲ行フノ猶
豫ナカルヘキモ將來ノ実測ヲ速ニスル為メ今日ヨリ伐木并ニ通路開設ノ作業ニ着
手スルヲ可トセン露國委員ニ於テモ同意ナレハ其實行方法ヲ協商シタシ

六、樺太島中北緯緯度附近ニ古來人跡到リテチアラエツル山地ノ測量並ニ全線
約三分二ノ山林伐截ノ後ニ非サレハ実測ヲ行ヒ難キナリトシテ河各ト雖
モ交通路ノ開設樹木ノ伐截ヲ要スル地点チカラテ全國境ヲ遍シテ實測ヲ行ヒ一連ノ
境界ヲ測定シ地圖ヲ調製センニ四年有餘ノ星霜ヲ蒙ルナルヘシ然レモ海峽幽谷

今後容易ニ開拓ヲレサル地ニ於テ刻苦經營ニシテ境界ヲ遠カラスレテ荒致掃
スニカラサルニ至ルモ固リ難シ故ニ吾人ノ專業ノ前葉三項ノ程度ヲ限リテ將來拓
殖ノ進歩ト共ニ本邦吾人ノ實測設定セル緯度ヲ延長シ所要ノ境界標ヲ増設
スルコトニシテ六、境界劃定ノ決定ヲ速ナラシメ九月ノ交迄ニハ概テ成功ハルヲ得ン
而シテ將來ノ延長ヲ容易ナラシムル為メニ境界ハ一直線ナルヲ可トス
此意見ハ直ニ可否ヲ決スニキ性質ニ非サルモ露國委員ニ於テ同意ナレハ測量ノ
停調査ニ此意見ノ適當ナルヲ認シテ各本國政府ノ指揮ヲ請ヒ之ニ関シ規約
ヲ締結スル度

規約(是ハ他日規約締結ノ會議ニ出ニキ提案)
甲、樺太島ニ於ケル日露兩國ノ領土ハ北緯五十度ノ一直線ヲ以テ境界トスルニシテ

MT

14137

206

MT

14137

205

此境界線ハ本年兩國委員ニ定測セル部分ヲ基準トス

乙、將來日露兩國ノ未タ實測ヲ經ルル地方ニ於テ開拓ニ着手セントスルハ、
正確ニ既測ニトシテ、北緯ヲ延長シ直ニ之ヲ對テ開拓ニ通知シ、期限ヲ定メ、
其承認ヲ求ムルベシトス

丙、此通知ヲ受ケタレバ、此延長セル緯度ヲ点檢シ其正確トラハルヲ認ムル

トシ、其開拓着手ノ拒絶シ彼等諸國ニシテ、此延長セル緯度ニ對シテ、

丁、此境界線ハ本年兩國委員ニ定測セル部分ヲ基準トス

七、地形測量ハ地區地物ノ關係位置ヲ以テ緯度ノ通スル地点ヲ精確ニ表示ス
ルヲ目的トシ、彼我各別ニ行ヒ其廣袤ニ成ルヘク長ク幅ハ緯度ノ南北凡ソ四吉米

ニ及ラモトス而シテ、我測圖班ハ別冊地形測圖方按ニ準據シテ實測セル意
見ナリ

八、我國委員ノ緯度測站ニ附圖第一ノ標石ヲ埋設ス而シテ日露ノ境界
ニ埋設スヘキ標石モ試ニ附圖第二ノ如キモノヲ立按セリ露國委員ノ按件
ト合シ協議修正ノ上製作ヲ命スルコトニシテ

九、北緯五十度以南ニシテ樺太島附近ニ於ケル島嶼ハ總テ露國ヨリ日本ニ讓與
セラレタルモノナリ依テ委員ハ今後其所屬ノ明瞭ヲ欠クノ虞ナカラシムルヲ目的トシ
大約北緯四十九度ヨリ五十一度ノ間ニシテ海岸ヲ距ル約二十哩ノ海面ニアル島
嶼ヲ調査シ其表及明細書ヲ作ルニ止ンコトヲ企望ス

十、島嶼ノ調査ハ區域ノ如何ニ關セス兩國委員各別ニ實測スルモノトス

MT

14137

208

MT

14137

207

豫告

一、我國委員ノ宿舍、器具材料、運搬等ハ多ク露領内ニ於テセサル可ニサルヲ以テ要スレハ人夫車馬ノ備役物資家屋ノ買借等相當ノ補助ヲ露國委員ニ依頼スルコトアルヘシ

二、我國ノ委員及之ニ属スル人員ハ別表ノ如シ

三四平街協約^降ノリ子ウキツテ將軍ヨリ我政府ニ傳言セラレタル所ニ依レハ貴國境界劃定委員ニ護衛トシテ兵百名ヲ附セルルヘキ趣ナリ。ホーツマス條約ノ精神ニ依レハ我モ亦同數ノ護衛兵ヲ有スヘキ筈ナルモ本員ハ專ラ貴國領土ノ内ニ行動スルコト多キヲ思ヒ貴國ノ治權ヲ尊重シ且フ貴國ノ政廳ニ信賴シ右護衛兵ハ引率シ来ラス只我軍ノ法規ニ從ヒ金櫃護衛トシテ銃器ヲ有スル下士卒

十名ヲ率ヒ又野獸ニ對スル自衛ノ爲メ古式銃三十、拳銃五十挺ヲ携行セリ尤モ形勢之ヲ不必要トスレバ古式銃并ニ拳銃ハ當地ニ殘シ置ク考ヘリ

MT 14137

210

MT 14137

209

秘

復

樺太島境界劃定ニ要スルニ見上申
日露議和條約如約款第二三條ハ樺太島境
界劃定ニ要ス

第一國境トナルヘキ全境界線ヲ實地ニ
示シ全圖境ヲ示ス地圖ヲ繪製シ

第二樺太島北緯五十度以南ノ沿岸ニ於ケル
島嶼ヲ搜查シ其表及明知書ヲ作ル

要シ候地ニ於テ我陸地測量員ノ實視候空
ニ依レハ北緯五十度附近ニ於テ境界線約三十邦
里中其三分ニ太古ノ密林ミテ樹木伐截後ニ

非テハ實地行ハレ難ク往々進入モ六テ敷又ホロオ
河谷ト雖モ馬車交通ノ為メ人工ヲ要スルコト不

外務省

勘越ニテ全案ノ實地ニ四五午ノ星霜ヲ費サレ可
ラサル儀ト思考致候因ヨリ實地踏査ノ上ナラテ
ハ精確ナル豫測ハ出来難キモ今年内ニ終了
難致ニ確カニ逆睹シ得ヘキ情况ハ歩坐候兩玉隣
接ノ地全部精確ノ境界ヲ劃定シ他日ノ炊累ヲ
避クルハ必要ノ儀ニ有之候得共數年ノ星霜ト
巨力ノ経費ヲ要シ而モ差當リ必要少キ部分多
キニ居リ候ニ付因テ於テ境界ノ實地踏査ヲ
欲シ主上ヨリ北緯五十度ノ一直線ヲ以テ劃定
致候モノトシテ必要ノ部分ノ實地踏
査ノ様致度又島嶼ノ如キモ也如約款規定ノ精神
ハ北緯五十度以南沿岸全体ニ就キ之ヲ踏査ヲ
為サル可ラサル様相見ヘ候得共是亦僅少ノ時

MT 14137 212

MT 14137 211

REEL No. 1-0370

0272

日内ニ精江無光東候ニ付大均四十九度ヨリ五十度
 ノ百ニシテ海岸ヲ距ル凡ソ二十哩ノ海面ニ限リ探査ス
 ル事ニ致度意見ニ付座候
 境界制定作業ニ別丹提議採緯度沿革及
 地政図方採ニ準レ高下委多トシ交渉然且ソ
 前政之意見亦採用相成候、提議案才六ハ未
 未、通リ修正致スハキ之見、付座候
 右之見ニ対シ何分、御指揮ヲ仰キ候也

明記三十九年五月二十三日

樺太境界制定委員長大嶋健
 陸軍大屯弁内正毅殿

外務省

MT 14137 213

REEL No. 1-0370

0273

復寫

甲

日露境界制定綱領

明治三十九年三月廿三日

樺太島ニ於テ日露兩國ノ境界、全部北緯五十度、直線ヲ以テ劃定スルモトシ、偏倚均衡曲線ニ據ルル迄ニ達セケルニ至ル所ニ至ル一部ニ止ム

理由

一、將來日露兩國ノ事アリトスルモ樺太島ノ首作我ニ行フ、地ニ非ス又北緯五十度附近、地形、現在地圖ヲ相シ、僅少地ニ偏倚、作我上ニ至大、利益ヲキキ、如シ況中本島ノ主ナル、ハ境界附近、邊界作我部系、強弱ニ非スレテ割地權、領有ニ在リ、故ニ平時防禦設備ヲ許サル地方ニ於テ一二吉米、出入國兵上大ニ影響

外務省

御旨ヲ生セサルヘシ

一、北緯五十度附近ニ有ル未ク到ラズ人煙極ニ稀少ニシテ、故ニ上ノ村ニ境界、偏倚曲線ヲ設ケ、必要ナルニテ、殖産ノ状況ニ由リ多ク、願慮ヲ要スヘキニテ、査報告ナキ今日之ヲ判定スルコト能ハス、只ホロナイ河、鮭鱒等魚、陸化ノ要水ニシテ、テルペニヤ湾ノ邊、昔々、一大漁原ナリト云フ、果シテ然ラハ、之カ、鯨系殖保護ノ爲メ、（限其國ニシテ、相、終利ニ當ス）十尺ノ長サモ之ヲ我領土内ニ收ルルヲ要ス、又ホロナイ河、ニシテ、遠ク上流ニ至ルニテ、舟楫、便アリトスレハ、河、恰モ東因、多難、如ク、南際河、川トナリ、其通、航權、（七サ、ルニ至ラン）此、吳ニ於テ、或ルヘシ、上流、境界、偏倚セシム

MT

14137

215

MT

14137

214

必西アリ然レ公姓タル偏倚ノ目的ニ於テ境界ヲ
 識別シ得ルニ在リテ無限ニテ擴張シ難キノミナラス
 之カ墾殖トシテ割クヘキ山地ノ富源亦ト知レ難
 ク独リ殖木ノミナラス時ニ有テタル鑛又ナレトセサル
 ヲ以テ實地踏査ノ後ニ此カレハ偏倚ニ依テ生ズル
 利害ヲ判定スルニ決ハカルヘシ
 亦三偏倚屈曲ニ地理ニ依テ境界ヲ劃定セント
 欲セハ不_レ境全線ニ直レテ踏査實心セサルベカラズ
 是短日月ノ作業ヲ以テ能クスヘキ事ニ格ナルノミナ
 ラス北緯五十度附近ノ地ノ太古ノ森林ヲ以テ覆
 ヘルチアラハエスツル而山脈連亘シ全線三十餘邦甲ノ
 稍ヤ敵軍セル部分ノ其三分ニ過キス高レテ二十邦
 里下ノ大部ニ於テ樹木ヲ伐截シ道路ヲ開設スルノ

外務省

此ニテ完右表ノ時日ト経費ヲ要ス

積表

名称	北緯半度 境界別		面積	員數	單價	摘要
	全長	幅度				
乘込	三哩	一丁	三八八〇坪	一五四〇	五九〇	平均二坪ニ本立木伐採燒棄残物露 一人百坪均六坪立木伐採燒棄残物 指定場所へ運搬一式
人夫			三六八〇	六四〇		毎百坪ノ使役一年間休業日數除キ 三百日就業ノ見込
日數			六四八〇	六四〇		
年數			六四〇	二四二		四年共ニ就業ニ得ルモノト假定シ

此計算ハ明記三十八年我測量班長タル陸軍技師中柴録
 三郎ノ實地視察ノ後作リタルモノニテ立木ノ全線山野ヲ
 通シテ平均レリ算ナリ目下島地拓殖ノ現況ニ於テ
 従令巨万ノ経費ヲ擲ク致耳作業ヲ行ヒ僅ニ一條ノ
 境界線ヲ作ルモ深山幽谷無人ノ境數年ナラスレ
 テ再々現時ハ状態ニ復セントス

MT

14137

217

MT

14137

216

結語

以上ノ理由ニ依リ彼我ノ境界ノ捜査延長ニ使テ一直線トシ今更ニ本年間ニ終了シ得ヘキ作業ヲ界限トシ東西両海岸ニ各一ヶ所ホロナイ河谷ニ於テ均ニヶ所ノ実測ヲ行ヒ以テ一部ノ緯度ヲ定メ之ニ應ズル地取測量ヲ行ヒ成ルニ至ル地取測量ノ所更ニ標定ヲ設ケ將來拓殖進出ト共ニ既測ノ境界線ヲ延長シ要スルハ更ニ修正スルコトヲ盟約スルヲ可トセン
乙我國境界制定亦多クアレキサンドロフニ於テ亦多ク必要ト會シ制定作業ヲ着手ノ爲メ尤ノ諸件ヲ確定ス

境界確定作業更リニ實スル提議

外務省

日本亦多ク境界確定作業ヲ着手ノ爲メ尤ノ諸件ヲ確定ス
一 合議ニ多ク本語ヲ用ヒ議定書ニ日語及西語ヲ以テ各二通ヲ作り日語及西語各一通ヲ領有スルモトス

二 日語及西語各一通ヲ領有スルモトス
三 議事録油紙表アリ且織ス此表アリ而テ委員長ニ呈ス亦委員長ニ面立ニ檢査シ於テ署名者交換シ他日議定書ヲ知長ノ資料ニ供ス
三 實地作業ニ先リ兩人民往來ニ得ル地境

MT

14137

219

MT

14137

218

并近キ將來ニ於テ招殖ノ切ハルニキ比較的雨量
 既^明ノ容易^部ヲ部^分ニヨリ為ルニトシ本年^ノ東^西而
 海^岸ニ於テ冬^一テ所^ノナイオロヨリオノレルヲ経テレイコラ
 ニ通スル道路附近ニテ所^ノ其東方若干里ヲ隔
 テ、適當^ノ地^ニ是^ニテ所^ノ横^ニ北緯^{五十度}ノ地
 是^ヲ沿^テ定^シホロナイ河谷ニ於テ成ルベク之ヲ連
 接^ス標^示スルモトシ其^實地^ノ順序^ヲ協^定セ
 ンコトヲ決^ム
 緯^度、雨量、天候、土地^ノ程度^ニ由ルニキキ一^定
 平均^凡シ^テ日^々要^スヘリ隨^テ降^雪前^途ニ昔^人ノ沿
 定^シ得^ルニキ地^真ハ約^四五^ノ過^キカレハシ
 而^彼我^ノ交^渉便^シ事^業、進^歩ヲ速^クシタルニ為^ル
 双方^界内^一ノ方法^ヲ以^テ同^時同^一地^上ノ緯^度ヲ沿
 定^セントコトヲ決^ム
 其^緯度[、]實^地及^沿定^{結果}ノ平均^地ノ凡^ノ別
 冊^緯度^沿定^方按^ニ按^ニ實^地レタキ^ニ見^ナリ
 之^實地^ノ協^定ヲ協^定事^業、實^地ヲ定^ム
 ンコトヲ決^ム
 六、^ナアラ、^エス^ル山^地ニ於^テル境界^ノ樹木^ヲ伐^截シ
 道路^ヲ沿^テ設^シル^地ニ非^カレハ^制定^作業^ニ後
 事^スル^{コト}決^ハカレ^レト^信ス^ルニ^テ本年^ノ山^地
 ノ雨量^ヲ沿^テ設^シル^地ニ非^カレハ^制定^作業^ニ後
 之^速ニ^スル^地メ^今ヨリ^伐木^并、^通路^沿設^シ
 作^業、^一着^手ス^ルヲ^可ト^{セン}ニ^爲ル^ニ要^スル^地ニ
 七、^同ノ^地ニ^ハ其^實地^ノ協^定ヲ^協定^シタ^シ
 六、^樺太^島中^北緯^{五十度}附近^ニ古^來人^跡到^ラル^ナカラ^ラ

外務省

MT 14137 221

MT 14137 220

エスツル山脈連亘し全線約三分二ニ山林伐截ノ後
 ニ振サレハ宜クシテ對キノミナスホロナイ河谷ト雖
 モ交通路ノ可ク設樹木伐截ヲ要スル地莫クナカラ
 ス全國境ヲ通シテ宜ク切通連ノ境界ヲ標定
 シ地圖ヲ製セシムルニ四年有余ノ早ク宜ク宜スル
 ナルニ於テハ深山幽谷今迄未ダ多ク開カレシサ
 ル地ニ於テハ刻若徒始セル境界モ遠カラシテ荒
 敗辦スベカラサルニモ因リ難ク故ク昔人ノ事案ハ
 前ノ才三次ノ程ニ限リトシテ未ダ始テ進歩ト共
 本年昔人ノ宜ク設定セシ境界ヲ延長シ所當ノ境
 界標ヲ増設スルニモ大ニ境界劃定ノ決定ヲ
 速クラシメ九月ノ交迄ニ概ネ成功スルヲ望ム
 シテ將來ノ延長ヲ容易ナラシムルニ爲メニ境界ハ
 一直線ナラフトス

外務省

此ノ意見ハ可ク可ク決スルニキモ世々ニ非サルモ亦
 多ク於テ因リテハ測量ノ傍調査シ以テ見
 適當ナラシムル各本不改正ノ如クナラシメ
 實スル規約ヲ締結シ後
 規約(是他規約締結ノ旨議出スルキ迄)東
 甲、樺太島ニ於テハ日本領土ノ北緯五十
 度ノ一直線ヲ以テ境界トスルニシテ此境界線ハ
 本年亦不変更ノ宜ク設定セラルルニシテ
 乙、樺太島ノ西ノ一カキタニ於テハ既ニ
 於テ開拓シテ手セントスルニハ正確ニ既ニ
 北緯ノ延長シ直ニ之ヲ對テ開拓通カシ
 限ヲ定メテ其承認ヲホムルニトス

MT 14137 223

MT 14137 222

丙、以通ちう文ケル一を、以延長セル緯度ヲ与核
 し其正附チラセリ決ムルトキハ、其ノ拓者手ヲ
 拒絶シ、彼我協核スルニシテ之ヲ修正スルノ權利
 ヲ保有ス
 丁、前項ノ具核者、其修正ヲ了ラセシ後、日英
 不共同ニテ所定ノ標石ヲ設ケル
 七、地取、測量、地已地物ノ関係係位等ヲ以テ緯
 度ノ通スル地点ヲ標識シ表示スルヲ目的トシ
 彼我各別ニシテ所定ノ表儀ニ成ルヘシ長ク幅ハ
 緯度ノ与北緯ハ四吉米ニ及ラズトスルシテ我
 國班ハ別冊地取測量方格ニ準據シテ定ムル
 ル事トス
 八、我國各島ノ緯度、附圖第一ノ標石ヲ
 埋設スルシテ日英境界ニ埋設スヘキ標石
 モ試ニ附圖第一ノ如キモノヲ之ニ據セリ、其
 各、附件トシテ協議修正、上知、修、各
 ル事トス
 九、北緯五十二度、以テ樺太島附近ニ於ケル
 島嶼、其ノ名ニテ、日本、樺太、其セラレ
 ルモノナリ、依テ其各島ノ緯度、所定ノ明瞭
 ナルノ度、ナカラシムルヲ目的トシ、大北緯四十九度
 ヨリ五十一度ノ間ニシテ、海岸ヲ距ルニ、二十
 百ニシテ、島嶼ノ油、其ノ表及明、其ノ作
 ルニ止シ、コトヲ企テス
 十、各島嶼ノ油、其ノ已域、如何ニ定ムルニ
 其各別ニ定ムル事トス

外務省

MT 14137 225

MT 14137 224

豫告

一我國秀色、宿舎器具材料、運搬軍ハ
多ク之欲由ニ於テセザル可クナルヲ以テ要スルハ
人夫車馬、備役、物資家、凡ソ、貸借等、其多
ク神助ニ寄ルニ多ク、依頼スルコトアルヘシ
ニ我ニ、多ク及之、臨スル人員、別表、如シ
三四、平術、坂、如、際リ、不ウ、井、テ、侍、軍、ヨリ、我、政
府、借、了、セ、ラ、レ、ル、所、ニ、依、レ、ル、兵、士、不、境、界、リ、創
定、多、ク、多、ク、護、衛、下、シ、テ、兵、士、百、名、ヲ、附、セ、ラ、ル、ヘ、キ
起、ル、ホ、ー、ツ、マ、ス、條、如、精、神、ニ、依、レ、ル、我、モ、亦、同
敷、護、衛、兵、ヲ、如、ス、ヘ、キ、ツ、テ、本、多、ク、在、ラ、ル
炭、玉、炭、土、ノ、内、ニ、初、ス、ル、コ、ト、ヲ、キ、ラ、思、ヒ、及、不
ノ、法、格、ヲ、傳、宣、シ、且、ツ、及、不、ノ、改、定、修、訂、形

外務省

一右護衛兵、引率シ、来、ラ、ス、只、我、軍、ノ、規
ニ、依、リ、八、五、糧、糈、漸、ト、シ、テ、銃、器、ヲ、存、ス、ル、下、士、卒
十、名、ヲ、率、ヒ、又、野、獸、ニ、對、シ、自、衛、ヲ、為、メ、古、式、銃
三十、發、手、銃、五、十、挺、ヲ、推、行、セ、リ、尤、モ、取、勢、之、ヲ
不、必、要、ト、ス、ル、ハ、古、式、銃、兼、ニ、拳、銃、ノ、當、地、に、残
レ、置、ク、考、ナ、リ

MT

14137

227

MT

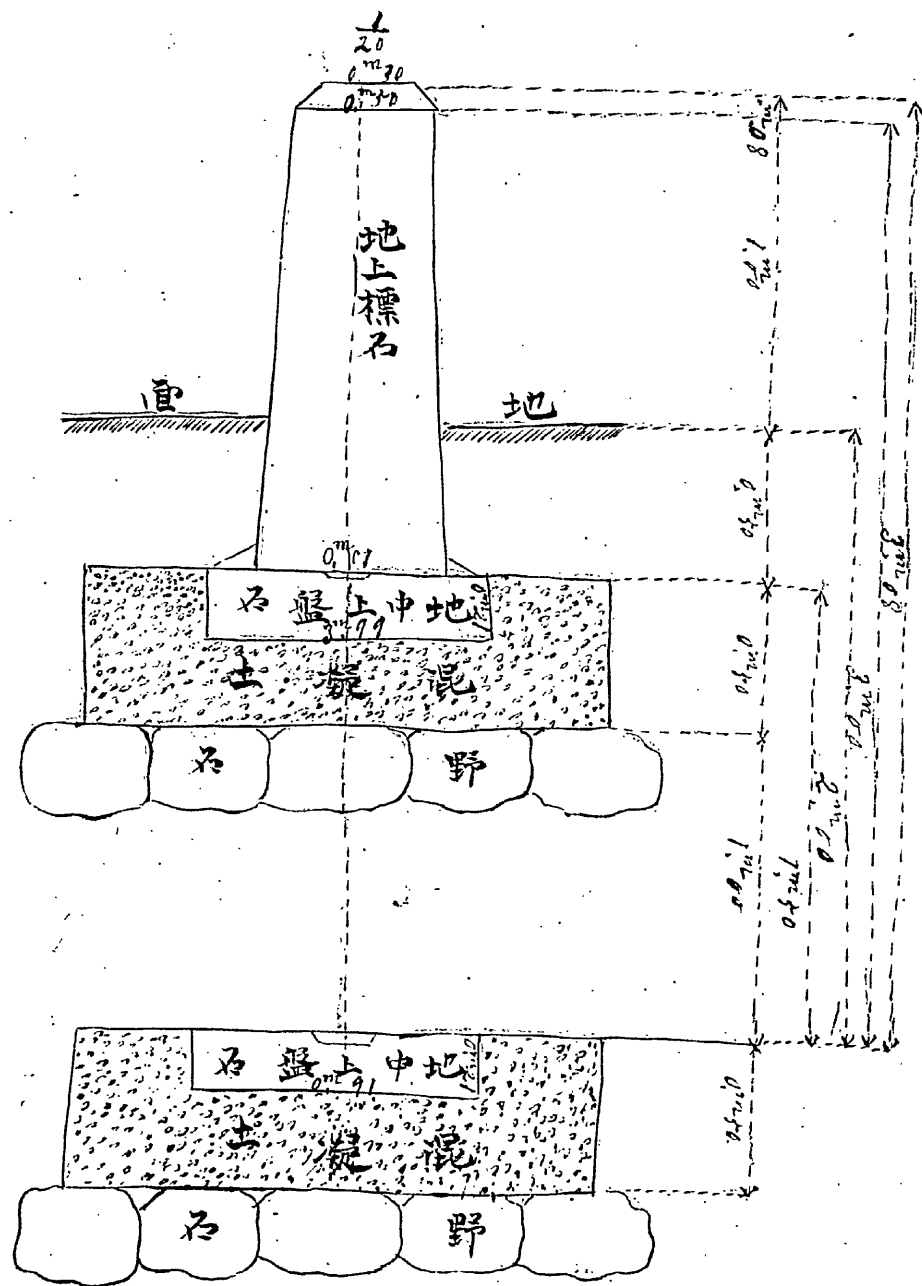
14137

226

REEL No. 1-0370

0280

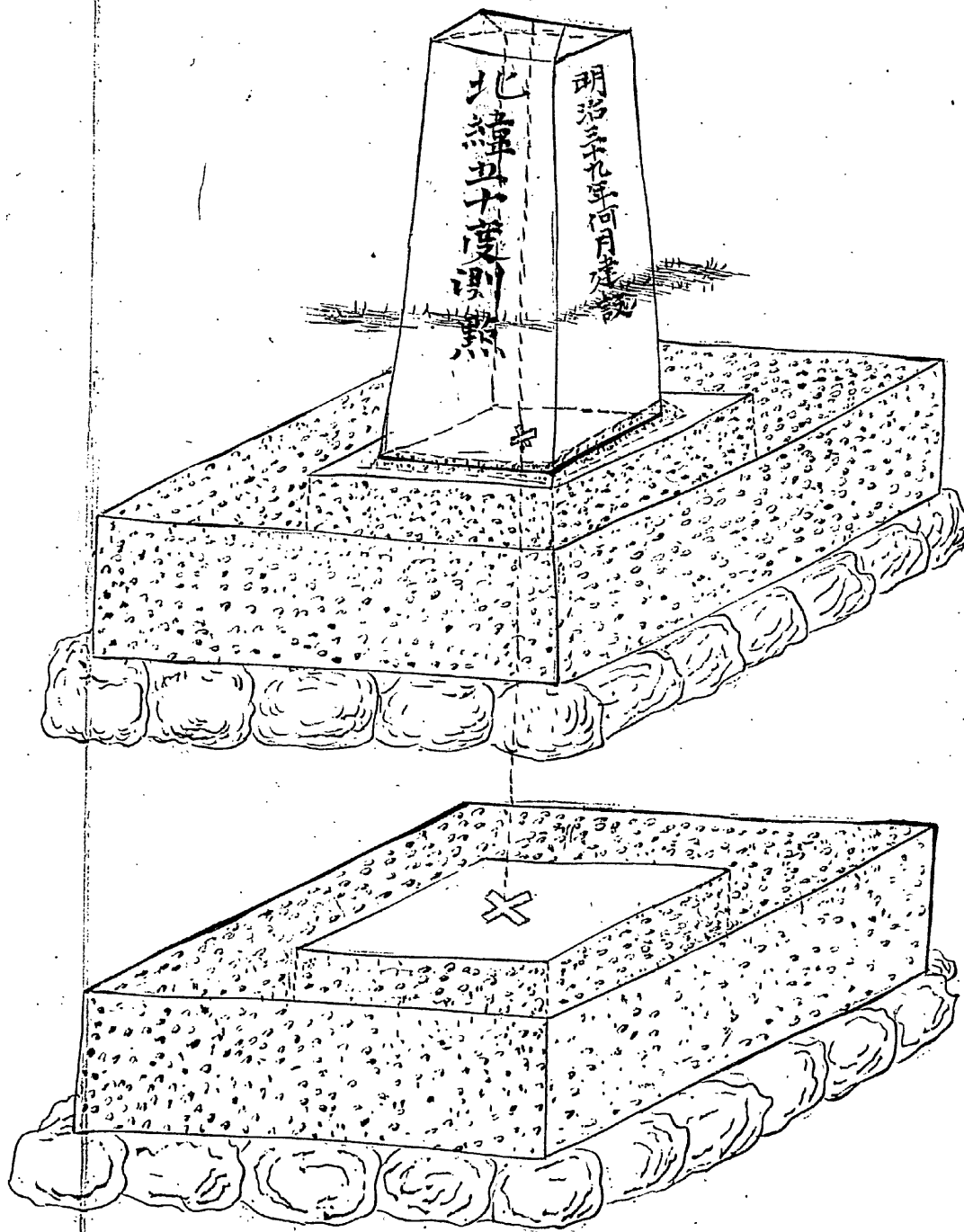
緯度測量點標石埋定所圖面



MT 14137 229

緯度測量點及地上標石視圖

復寫

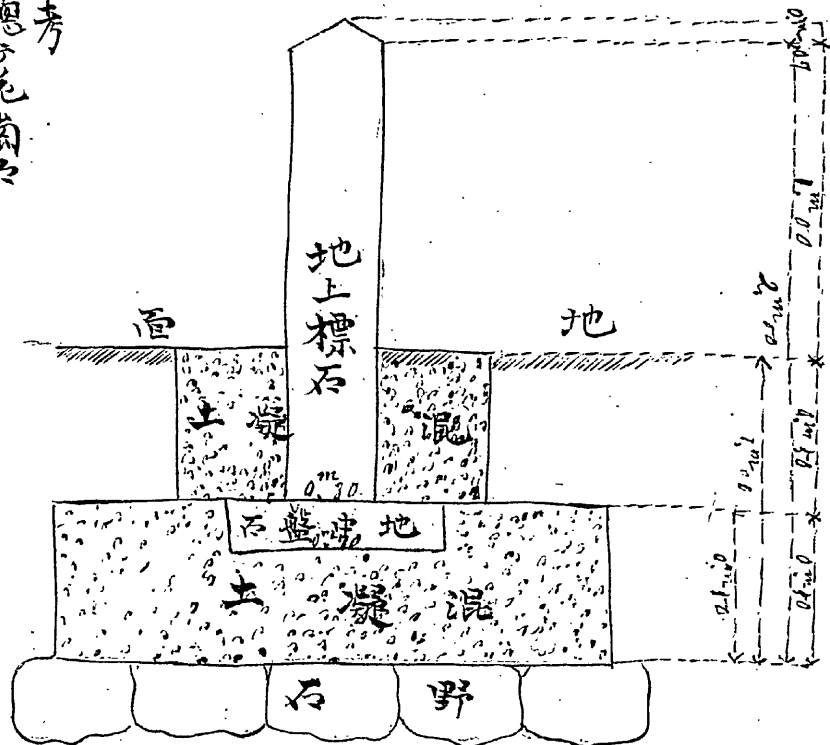


MT 14137 228

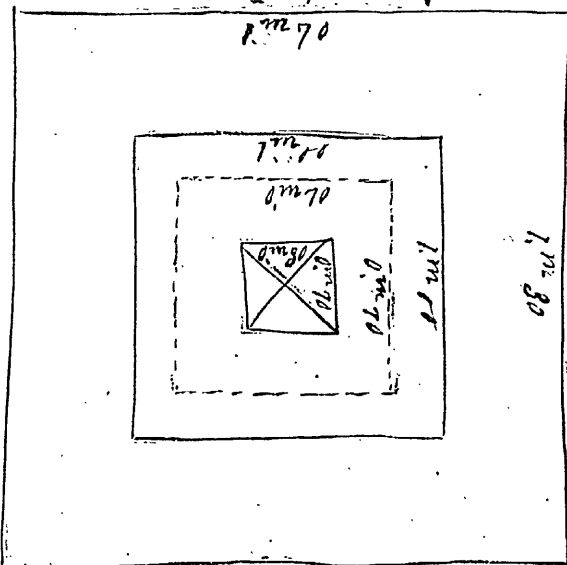


日露國界標石
断面圖

備考
 一標石總長七箇
 一地上標石、埋置標石の白(白)色
 一地中盤石、埋置標石の白(白)色



同上断面圖



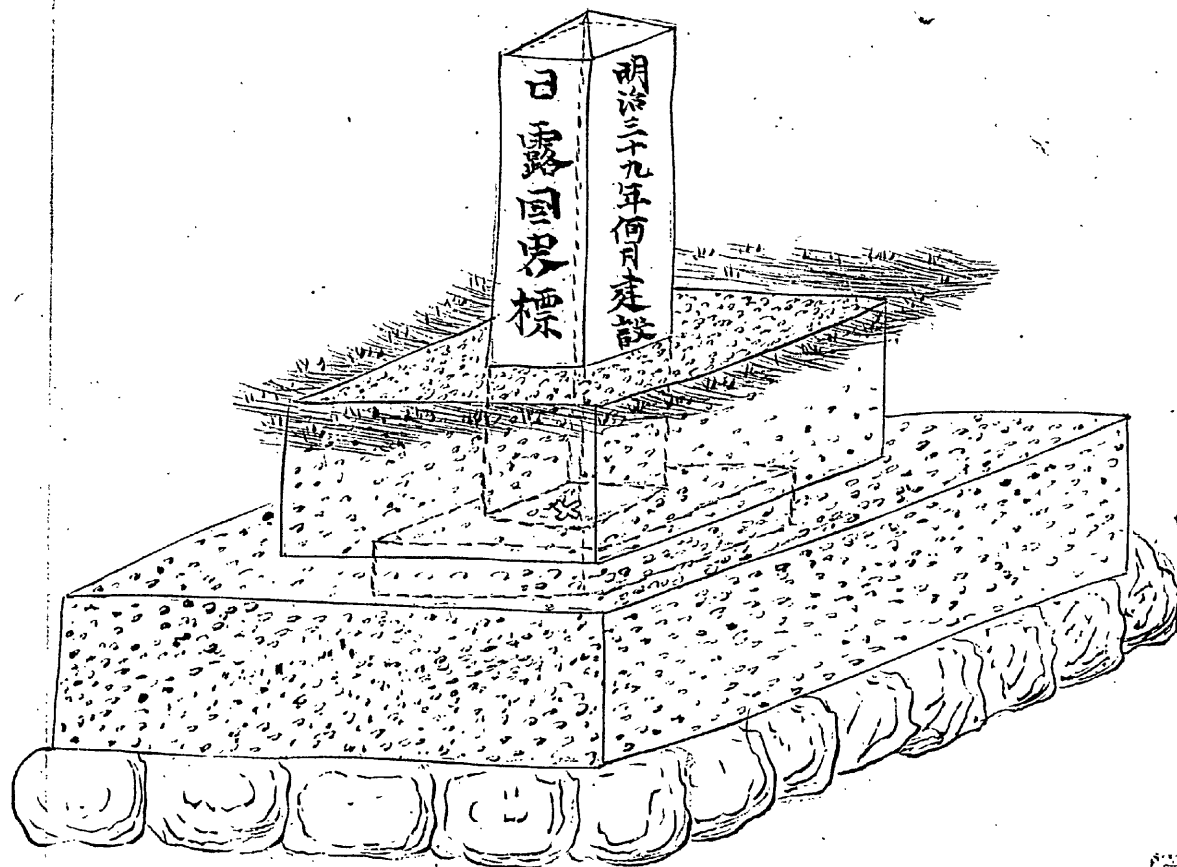
MT

14137

231

日露國界標石
埋定視圖

後寫



MT

14137

230

外務省

明治卅九年六月一日接受

明治卅九年
五月廿五日
政務局
日起草
日發遣

信
主任

大臣

海軍大臣
海軍省

樺太境界劃定
案

42

明治卅九年六月一日接受
卅九年六月一日接受

外務省

以青嶺山脈
右境界劃定
案
五月廿五日
付
送
案
五月廿五日
付
送
案
五月廿五日
付
送
案

MT

14137

233

MT

14137

232

REEL No. 1-0370

0283

番員 陸軍砲兵中佐 坂邊 名之助
番員 陸軍歩兵大尉 畑 英太郎
番員 海軍大尉 和田 勇二
番員 陸地測量所 香川 守一
以上

外務省

MT

14137 236-2

REEL No. 1-0370

0285

下定ヲ又該令旨ノ期日
 一諸般準備、都令旨ニ
 付之、付来ル六月下旬
 當地ニ出發スルヲ決意
 負、會令旨ニ到着ニ
 上ニテ決定スルコト
 爲之、該令旨ニ依テ
 承知、取致、然ル中、延
 音、却、未、決、之、以、一、重、多、否
 下、向、之、敬、意、ヲ、表、ス、ル
 敬、具

外務省

副記

樺太境界劃定案の件

委員長 陸軍砲兵大佐 大崎健一

MT

14137-236-1

MT

14137

236

REEL No. 1-0370

0286

~~au lieu de la~~ rencontre, cette Commission
qui ^{d'ici} partira dans les premiers jours
mois de
du juin prochain.

Enfin voici les noms des membres de
la Commission japonaise pour la délimitation
de l'île de Karafuto:

Oshima Kenichi, Colonel d'Artillerie, Chef
de la Commission;

Watanabe Iwanosuke, Lieutenant-Colonel
d'Artillerie, Commissaire;

Hata Eitaro, Capitaine d'Infanterie,

MT 14137 SEP 238 TM

Commissaire;
Wada Yûji, Lieutenant de Vaisseau, Commissaire;
Yagima Morichu, ^{ji} Architecte Militaire,
Commissaire.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre,
les nouvelles assurances de ma très haute
considération.

signé: H. H.

MT 14137 SEP 237

laquelle Votre Excellence, en annon-
çant au Marquis Saionji que les membres
de la dite Commission Russe se trouvent
déjà dans l'île de Karafuto, a bien
voulu lui exprimer le désir de
s'entendre avec le Gouvernement Impé-
rial sur la date et la localité où
les Commissions des deux pays devront
se rencontrer.

Je m'empresse d'informer Votre
Excellence que le Gouvernement Impérial

MT

14137

240

TM

vient de nommer les personnes ci-dessous
mentionnées ses commissaires pour la
délimitation en question et qu'il se pro-
pose de désigner Alexandrovsky pour
la localité où se ^{réuniront} ~~tenra~~ la réunion
des deux Commissions.

Quant à la question ^{de la date}
d'ouverture de cette réunion, ^{le} ~~mon~~
Gouvernement désire qu'en vue des divers
préparatifs à faire, elle ^{soit} ~~soit~~ décidée
après l'arrivée ^{à Alexandrovsky} de votre Commission.

MT

14137

239

REEL No. 1-0370

0288

MT

14137

241

Erasmus

4 *Adatay* (7)

~~N^o 163~~ Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception
 de la lettre N^o 152 du 5 avril a. c. que
 Monsieur le Chargé d'Affaires Kozikow
 a adressée à S. E. le Marquis Saionji
 pour lui communiquer les noms des
 personnes faisant partie de la Commission
 Russe pour la délimitation de l'île
 de Karafuto, ainsi que de la lettre
 N^o 169 en date du 9 avril dernier, par
 Son Excellence
 Monsieur G. Baklanoff
 Envoyé — — —

REEL No. 1-0370

0289

明治廿九年 六月 四 日 起 草
同 月 日 發 遣

手交

電信案

[Signature]

林大五

七重中隊
第四三第

樺太境界劃定委員トシテ 長 砲兵

大佐大島健一 砲兵中佐坂田岩

之助 歩兵大尉 畑 兵 大尉 油 兵 大尉

和 田 勇 二 陸 地 砲 兵 師 矢 野 守 一

四名任命セラレ 六月五日東京発

アレキサンドロフニ於テ露公委員ト

會合ノ答ナリ

電送第 1359 號 26
明治 29 年 6 月 4 日 發 遣

MT 14137 243

MT 14137 242

REEL No. 1-0370

0290

機文第1096號

42(2)

抄
奉
外務省
外務次官
珍田捨巳
謹啟

奉
外務省
外務次官
珍田捨巳
謹啟

陸軍省
陸軍大臣
大島健一
謹啟

明治三十九年七月二日

陸軍省

陸軍大臣
大島健一
謹啟

3

MT 14137 245

機文第1096號

奉
外務省
外務次官
珍田捨巳
謹啟

奉
外務省
外務次官
珍田捨巳
謹啟

明治三十九年六月二日

機文第1096號

陸軍省

陸軍大臣

大島健一
謹啟

陸軍省

陸軍大臣
大島健一
謹啟

MT 14137 244

REEL No. 1-0370

0291

44

樺太境界劃定委員長大島砲兵大佐報告第一号

六月二十日

前署境界劃定委員一同各事去月十四日午前馬山

港若港務官森、露國委員東船上陸宿營之園

大津備モ略知と居り翌十五日軍務總務課

事務課ヲ交ケ用ハ午後第一回會議ヲ開キ昨二十

一日迄四回會議シテ、大島左ノ順序ニ從ヒ作業

開始之事ニ決シ来ル二十日ヨリ境界ニ向ヒテ

一境界線劃定之方針、點ト全ク我提議ノ如クスル

コト、森ノ意見アリシモ之ニ決セリ

二西海岸トホロナイ河水トニ於ケル天測點ハ是非迅速

接シテ境界ヲ設クルコトニ決意セリ依テホロナイ河水

ノ天測點二個ヲ一個ニ減ハルコトヲ當方ヨリ申出テ之ニ

陸軍

決セリ

三露國委員ハホロナイ河東方ノ密林ヲ勉メテ之ヲ伐開シテ

一帯ノ境界ヲ設定セントノ意見ナリシヲ以テ之ニ同意シ

置キタル是後ノ會議ニ於テ或ハ終ニ全部ノ裁開ヲ

為レ能ハサルヲ恐レトノ空氣ヲ洩シ居レリ

四島嶼ノ調査ハホロナイ河ノ西交通ヲ絶リシ度

各露國委員ノ互結ニ依リ之ニ同意セリ

五兩國委員ハ廿五日夜ホロナイ河水及西海岸ノ天測

ヲ始メ

六日露國委員及測量員等平ヲ大禮丸に乗セ五時半

島嶼ノ調査ヲ行フ日、前夜西海岸ノ測量

員ヲ便乗セシメ廿四日港ヲ出帆シ乘テ東海岸

五十度附近ノ上陸點ヲ調査ス

MT

14137

247

MT

14137

246

至多呈出改英提議其他中途之修正改英(係レ
主旨ニ於テハ一モ變更ナシ)若後露國委員ノ意向相
確メルニ彼亦大體ニ於テ我ト同一意見ト有在提議
ヲ承シ之ヲ議題トシ百事ヲ決スルノ有様ト有在
會議多記系ニ在提議ニ因リ議定書ヲ作ルハキ事
ヲ露國委員ニ委シ其處來夕完成改英ニ依リ是等
之書類ハ境界切著後製作スルコトトシ昨ヨ會議ノ
末是迄決定ノ事項ト作業實行ノ順序ニ関スル箇
條書ヲ作り右取敢實行ニ著ルルコトニ改英故ニ今
日迄會議決定セシ事項ニ関スル書類ハ後使相送
可改英

露國委員ハ絶對ニ軍用令及グロテコフヲ將軍ヨリノ
訓令ヲ有シ居リ種々細ク訓示シアルモ要ハポーツカス

陸 軍 二

條約ノ敷衍ニ過キス者最後ニ重要ナル事項ハ絶對軍用
令部ノ指揮ヲ仰キ決定スヘキ様記載有之一括スレハ
我訓令ト全ク符合改英
露國委員長ハ以テ孰シモ西直ニ人物品ヲアコメテ工フ
大尉即天測科長ハ天文ニハ餘程工者ニテ是迄數多ノ
實驗ヲ有シ學術ノ命スル所ニ忠實ニシテ公平ノ議
論改英

當地戦線荒涼ノ情態依然存候シ改令モ未夕
充分善及セサル有様故總督モ大ニ注意改令我々
對ルニ信任保安ニ與スル若キヲ費シ治道ニ哨兵ヲ
配布シ當日本委員等屬ノ兵負リ派遣改令委員
日初ヲ總督ニ看ヒ委シ改令ノリネーウヲ將軍ヨリ
福島少將ヲ經テ我政府へノ通告ニ関セズ予ハ露

MT

14137

249

MT

14137

248

國ノ主權ヲ尊重シ總務ノ為政ニ任頼シ金櫃ニ渡衛
 ノ外一兵モ召連レサルコトヲ告ケレシ責任者之責トテ如何
 考居リシカ遂ニ口ヲ開キ沿道并ニ境界地ニ免分ノ
 懸レ備ヲ加フヘキヲ付我兵員ヲ安セサル旨ヲ告ラレ既
 鎮警ルル萬事切切ニ注意改告ル併恰モ城兵
 之東リタルト同様ナル我々之爲シ心中予リ欲持
 移ルル之國際上ノ義理トシテ厚遇成言以故我
 利權ヲ全クせん爲ニ一歩モ譲ルルヲ安セス寸毫モ遠慮
 スルニ及ハサルモ其他之類ヲハ先方ノ心情ヲ察シ誠
 意誠意ヨリ勸ラ成様一國ニ成飾品也
 標石境界ニハ日露共同シ其熱作ヲ善毒石工ニ
 命スルコトニ改更其表層ニ彫刻スル徽章ニ関シ
 此法宜然否否決出並更召降詔儀降降

MT

14137 250

陸軍

和英交渉狀善ノ次ハホロナイ河水ニ出テ海了也
 和島之田ヶ所共ニ測量中ト存ル尚地ニ暗天
 之日ニ立テモ室内ニ鉢位ハ欲シキ有標ニ以テハ後使
 之ニ並上之總テノ書寫ヲ具シ番細報告スヘキ心算
 付以上概畧ト上奏

六月廿二日アレキサンドルラスキーヲ控テ

大島健一

直テ和英國公使等ニ出進シ先ニ和英交渉之不為人上下
 有り厚遇ヲ委ケ執ニ爲是際和英兩國下ヨリ一書
 以共ニ呈送下ルテ之後、俄空トシテ存ル

MT

14137 251

後編

樺太境界劃定交渉長大島砲兵大佐報
告第一号 六月三日

前番境界劃定交渉四月十四日午
子飛山港^{（樺太）}古^{（樺太）}の交渉交渉未だ未だ上陸右
等、要するに準備モ略整と有り翌十日軍務
總督ヨリ十夜招待ヲ受ケ同日午後第一回會
議ヲ開キ四月二十一日迄、四回、人會議^{（樺太）}了^{（樺太）}ハ大要
左ノ次序ニ按^{（樺太）}テ作^{（樺太）}ル事ニ決^{（樺太）}シ未^{（樺太）}ル二十
日ヨリ境界劃定交渉中

一境界劃定之方針ハ殆^{（樺太）}ント全^{（樺太）}ク我^{（樺太）}終^{（樺太）}議
ノ如^{（樺太）}クスル^{（樺太）}ト 交渉^{（樺太）}ニ見^{（樺太）}テ決^{（樺太）}セリ
二西^{（樺太）}地^{（樺太）}岸^{（樺太）}トホ^{（樺太）}日^{（樺太）}イ^{（樺太）}河^{（樺太）}水^{（樺太）}ト於^{（樺太）}ケル天^{（樺太）}測^{（樺太）}点^{（樺太）}ハ是^{（樺太）}非^{（樺太）}

外務省

其^{（樺太）}連^{（樺太）}接^{（樺太）}シテ境界^{（樺太）}ヲ設^{（樺太）}クル^{（樺太）}ト決^{（樺太）}意^{（樺太）}セリ依^{（樺太）}テホ^{（樺太）}日^{（樺太）}
ノ河^{（樺太）}水^{（樺太）}ノ天^{（樺太）}測^{（樺太）}点^{（樺太）}二^{（樺太）}個^{（樺太）}ヲ一^{（樺太）}個^{（樺太）}ニ減^{（樺太）}スル^{（樺太）}トテ交渉^{（樺太）}方^{（樺太）}ヨリ申^{（樺太）}
出^{（樺太）}テ之^{（樺太）}ニ決^{（樺太）}セリ

三交渉^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ノホ^{（樺太）}日^{（樺太）}イ^{（樺太）}河^{（樺太）}水^{（樺太）}ノ密^{（樺太）}林^{（樺太）}モ勉^{（樺太）}メテ
之^{（樺太）}ヲ伐^{（樺太）}削^{（樺太）}シテ一^{（樺太）}条^{（樺太）}ノ境界^{（樺太）}ヲ設^{（樺太）}定^{（樺太）}セント、是^{（樺太）}見^{（樺太）}テ
リレ^{（樺太）}テ以^{（樺太）}テ之^{（樺太）}ヲ司^{（樺太）}スル^{（樺太）}事^{（樺太）}キ^{（樺太）}タ^{（樺太）}ル^{（樺太）}モ最^{（樺太）}後^{（樺太）}、人^{（樺太）}會^{（樺太）}議^{（樺太）}ニ
於^{（樺太）}テ或^{（樺太）}ハ終^{（樺太）}ニ全^{（樺太）}部^{（樺太）}ノ裁^{（樺太）}削^{（樺太）}ヲ為^{（樺太）}レバハサ^{（樺太）}ル^{（樺太）}恐^{（樺太）}レト
ノ語^{（樺太）}氣^{（樺太）}ヲ洩^{（樺太）}シ居^{（樺太）}レリ

四島^{（樺太）}嶼^{（樺太）}、洞^{（樺太）}查^{（樺太）}ハホ^{（樺太）}日^{（樺太）}イ^{（樺太）}河^{（樺太）}水^{（樺太）}ノ正^{（樺太）}文^{（樺太）}通^{（樺太）}リ施^{（樺太）}リ
シ度^{（樺太）}旨^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ノ事^{（樺太）}キ^{（樺太）}タ^{（樺太）}ル^{（樺太）}モ最^{（樺太）}後^{（樺太）}、人^{（樺太）}會^{（樺太）}議^{（樺太）}ニ
五西^{（樺太）}ノ未^{（樺太）}だ^{（樺太）}交渉^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ノ事^{（樺太）}キ^{（樺太）}タ^{（樺太）}ル^{（樺太）}モ最^{（樺太）}後^{（樺太）}、人^{（樺太）}會^{（樺太）}議^{（樺太）}ニ
六日^{（樺太）}會^{（樺太）}議^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ニ交渉^{（樺太）}ノ事^{（樺太）}キ^{（樺太）}タ^{（樺太）}ル^{（樺太）}モ最^{（樺太）}後^{（樺太）}、人^{（樺太）}會^{（樺太）}議^{（樺太）}ニ

MT

14137

253

MT

14137

252

五十以南を急ぎ調査するに同船に前主項二四
四月、測量船より便乗せしメ女官高橋ヲ出帆
隊ヲ東海沿岸五十附近、上陸点ヲ調査ス
隊ヲ呈出シ後、其地モ途中進、修正法
莫(併し)主旨ニ於テ、一モ変更ナシ著後、
委員、主旨向キ、彼亦大体ニ於テ
我ト同(意見)ハ右提議ヲ示シテ、議
百事ヲ決スル存疑トモ成ルハ、各議事
并シ右提議ニ因リ、議定スルハ、事
不委員ニ委シテ、處未ク完、成後、依テ
之書、數、境界地等、後、製作スルコト
日會、議、未是迄、決定、事項、下、作、業、宜
ノ順序、要ス、箇條、事、作、リ、不、取、宜、リ

外務省

ニ、廿、年、ス、ル、コ、ト、ニ、決、定、故、今、日、迄、會、議、決、定、セ、レ
諸、項、ニ、要、ス、ル、書、類、後、便、有、送、可、成、也
不、委員、ニ、委、シ、テ、東、軍、司、令、官、ヲ、ロ、テ、コ、ツ、ク、作、業、
、訓、令、ヲ、有、シ、テ、種、々、知、ル、訓、示、レ、ル、モ、要、ハ、ホ、ウ、マ
ス、條、約、數、術、ニ、過、キ、ス、ル、最、長、ニ、重、要、ナ、官、項、ハ
陸、軍、軍、司、令、部、指、揮、ヲ、仰、キ、決、定、ス、ル、様、記、載
有、之、一、紙、ス、ル、故、訓、令、ト、全、ク、符、合、法、也、
不、委員、ニ、委、シ、テ、以、下、執、レ、モ、正、直、ニ、人、物、殊、ニ、マ、マ、チ、エ
ノ、大、尉、即、天、測、科、長、ニ、天文、ニ、餘、程、工、者、ニ、テ、是、迄
數、多、ク、實、験、ヲ、有、シ、學、術、ノ、命、ス、ル、所、ニ、忠、心、シ、レ、テ
公、事、ヲ、誠、心、以、テ、行、フ、
、心、地、我、餘、ニ、添、補、情、感、依、存、在、候、レ、政、令
ニ、未、ク、完、全、ニ、答、答、セ、ル、有、格、故、總、務、大、注、意、ス

MT

14137

255

MT

14137

254

故し我々ニ対スル眞實位保あり要スル告示ヲ發シ諸
 國ニ有兵ヲ配布シ或ハ本委負者屬兵有テ形
 勢波異ニ至過。の德對建ニ至之例ノリネー
 ウツチ移軍ヲ福島少收ヲ姪テ我政府ハ通告
 要セス。ハ勿論、主權ヲ重シ德對爲政
 行救シ全權渡衛ノ外一兵モ有連レカルコトヲ
 告ケレシ責任者又事トテ智ク考居リシカニ遂
 フテ岸キ沿邊ニ并ニ境界地ニ充分ノ警備ヲ
 カツキ付我兵員ヲ要セサル者亦答ヘテ於
 總對以ハシテ事相切ニ爲之波兵付併指モ
 城支取来リシト同操我々ニ對シ心申ウレ御
 待波兵付モ多ク國邊上ノ我際トシテ厚邊波
 兵次手却我刺棒ヲ全クスル爲ニ一歩モ譲ルラ

外務省

要セス寸毫モ遠隔スルニ及ハサルモ其他於テハ
 先方ノ心持ヲ察シ誠ニ誠實ニ行動ス波操
 一同ハモ戒飾波儀
 標石^{境界}_ノ境^界ハ日^也波共同シ其勅作ヲ本委負者
 ニ命スルコト波矣其委負者ニ劃刻スル徽章
 圖シテ決ニ之候交ハ兵隊ノ出立矣右御
 讓波降^之矣以收美ノ波ハボロイ河水ハオ付
 近岸^ノ海了^リ海^釣島^之四^ケ波共ニ別當ニ交リ
 中ト存ル地^ニ晴又^ハ日^ニ至テモ室内^ノ少^シ鉢位
 ハ吹シキ有^ル故^ニニ後^任ニ是^レ也之^レ總^テ去
 新^ラ具シ委^細報告^スハキ心^ニ事^キ付^ル上^ノ概^界
 申上矣
 六月廿二日アレキサンドロフスキーニ於テ

MT 14137 257

MT 14137 256

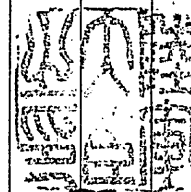
明治三十九年八月二十三日接受

陸軍省 陸軍部

送達 満密發第 二九八 號

明治三十九年八月廿二日

陸軍大臣寺内正毅



陸軍省 陸軍大臣寺内正毅

外務大臣子爵林董殿
韓太境界劃定經過、其元、河成、あ、る、り、候
告、あ、飲、及、送、付、候、也

機密 第170/號

45 259

陸軍

MT

14137

259

要目付了

8

REEL No. 1-0370

0299

樺太境界劃定委員長報告ノ要領

一、露領樺太亞歷山港ニ於テ六月十五日ヨリ六月二十日迄彼我委員協議ノ結果大體我委員提案(別紙参照)通シ決シ只北緯五十度以南島嶼ノ全部ノ調査及測量並ニ境界線全部ノ伐リ開キ露國委員提案通シ決ス

二、六月二十五日委員長一行ハ亞歷山港ヲ登シ同二十八日カコデコフ(カノール東南方)ニ着シカコデコフ南方約四吉米ホロナイ河右岸ニ於テ第一天測點ノ觀測及森林伐開作業ニ從事ス

三、六月二十三日渡辺委員ヲ西海岸ヨリレオ附近ニ派シテ緯度探求及地形測量ニ從事セシム談委員ハ同二十五日レオ附近ニ上陸作業ヲ繼續ス

四、六月二十三日和田委員ヲ大禮九ツ島嶼ノ調査及測量ニ從事セシメ七月十九日已ニ其作業ヲ終レリ

陸 軍

五、七月二十日第一天測點ノ觀測ノ結果第一境界點ヲ劃定シ境界線測量及伐木ヲ開始シ尙ホ引續キ第二ハムダサレ附近ニ於ケル第二天測點ノ作業ヲ開始ス

諸報告ニ徴スルニ東海岸ハ當分航行危險ナルミナラス假令上陸點ヲ発見シ得ルトスモ十月中ニ上陸ヲ終ル困難ナルモノ如シ

MT 14137 261

MT 14137 260

境界劃定作業實行に關スル提議ノ要領

一、緯度ノ測量ハ天候ト土地開散ノ程度ニ由ルヘキモ一點平均凡ソ二十日ヲ要シ降雪前迄ニ測定シ得ヘキモノハ約四點ニ過キサルヘシ因テ吾人ハ東西兩海岸ニ於テ各一ヶ所、ナイオロヨ、オリールヲ經テルイコフニ通スル道路附近ニ一ヶ所、其東方若干里ヲ隔テ、適當ノ地區ニ一ヶ所ヲ撰ミ北緯五十度ノ地點ヲ測定シ此四點ヲ基準トシ之ニ通スル同緯線ヲ以テ國境ヲ劃定シ之モトシ其實測ノ順序ヲ規定セシムルヲ望ム

二、樺太島中北緯五十度附近ハ古來人跡到ラズチアラ、エスツル西山脈連亘シ全線ノ約三分ニハ山林伐截ノ後ニ非サハ實測ヲ行ヒ難キヨミナラスホロナイ河谷ト雖モ同様ノ地區少カラス全國境ヲ通シテ數多ノ天測ヲ行ヒ尙精確ノ地圖ヲ調製セシハ

陸軍

少シモ二年有餘ノ星霜ヲ要スルヘシ故ニ緯度ノ實測ハ前項ノ程度ヲ限リシレホロナイ河谷ニ於テ別紙基準點間ニ於ケル境界標識要領(畧ス)ニ準シ兩基準點ヲ連接シテ所要ノ標識ヲ設ケ其他ノ部分ニ於ケル標識ハ將來拓殖ノ進歩ニ應ジシヨ實施スルモトセハ大ニ境界ノ劃定ヲ速カサシムルコトヲ得シ露國委員ノ招賛ヲ望ム而シテ拓殖ノ進歩ニ從ヒ將來施行スルニ標識作業ニ關シテ更ニ所要ノ規則ヲ締結シ度ニ地形測量ハ地區地物ノ關係位置ヲ以テ測定セル境界ヲ精確ニ表示スルヲ目的シ彼我各別ニ行ヒ其廣袤ハ成ルル長ノ其幅ハ要スルニ境界ノ南北凡ソ四吉米ニ及フモノトス

四、北緯五十度以南ニシテ樺太島附近ニ於テ島嶼ハ總テ露國ヨリ日本ニ讓與セシムルモノナリ依テ委員ハ今後其所屬ノ明瞭ヲ欠クノ慮アルヘキ部分即チ大約北緯四十九度ヨリ五十一度ノ

MT

14137

263

MT

14137

262

間ニシテ海岸ヲ距ル約二十哩ノ海面内ニハ島嶼ヲ調査シ
其表及明細書ヲ作ルニ止ニテナシ

陸
軍

MT 14137 264

REEL No. 1-0370

0302

明治二十九年八月二十四日接受

陸軍省 陸軍大臣寺内正

送達 陸軍省 滿發第 三四一三號

明治二十九年八月二十四日

陸軍大臣寺内正

受第一五三二八號

外務大臣高田 林董 殿

八月三日附テ以テ樺太境界劃定委員長ヨリ
別紙証文ニ通テ報告有之タリ及通報候也

陸軍省 陸軍大臣寺内正

陸

軍

MT 14137 265

REEL No. 1-0370

0303

電文譯

大臣宛

樺太境界劃定委員長

七月二十日「ホロナイ」河畔ニ於テ第一天測點ノ天測ヲ終リ
 直ニ東西兩方向ニ伐木及境界線ノ設定ニ着手セシカ
 露國委員、取リ方方法ニ對シ抗議ヲ為シタルニ境界點
 一確定今日迄遷延セシモ全部當委員ノ要求通トナリ
 本日第一天測境界點ノ確定ヲ終リ右ノ結果北方ニ
 伐木ノ林空ヲ擴ルルモ、ナリタルモ今日迄ノ作業ニ影響
 セズ著々伐木ハ進行シ東西約五六百米ニ達シテ第二期
 「ハンダサ」及「ピレオ」ノ天測點モ既ニ第一期ノ探宷ヲ
 終リ逐次正測ニ着手中ノ島嶼測量及海面探宷
 モ終リタルトモ尚海岸ニ當テ航行危險ナリノ八月三日

陸

軍

MT

14137

266